明治卅五年三月廿七日 第三種郵便物認可
第百七十一號 (一)
The Patriotic Ladies. No. 171. Feb. 20th.

明治四十二年二月廿日發行 毎月二回(五日・廿日)發行 電話番町千七百四十五番 同 五百二十番 振替貯金口座一一三八一番

社説

富國（二）

往古は律義千萬なるを、人の娘氣質と申侍りき。近年は人の娘、内儀もおとなしからずして、傾城、遊女、芝居の女形のありさまをうつし……人の見るべくを大事にかけ……思の外なる苦勞をするは、今時の女ぞかし。……されば當世の娘の風俗、しやれ過ぎて、遊女の如く派手になれるは、母親の鼻のさき知慧にて、大方なる器量なれば、娘自慢して、目立つ衣裳を着せて、人立多き寺社へ連行き、浮氣男の見返し立停るを悦び、おそらくこちのやうな娘持つたものは世界にあるまいと、鼻高うして行かる、……派手なる衣裳着飾り、かゝ樣行かうと、聲々に泣きわめいて、後追ふ子供を内に捨置き、子の無い顏して、世間の男に見られに行くなど、縦令心は貞女にても、子に換へて、伊達を好み、人立多き所を心懸けて行く氣からは、内の事も、子の事も、親の事も忘れ果て〻……いたづらの浮名立つ基ぞかし。

七つ八つになる小娘も、人まかせの髮結姿、氣に入らず、つとなしの投島田に、かくしむすびの浮世元結を掛けてと、こまじやくれたる物好。古代は緣付の首途には、親里の別れを悲しみ、涙に袖を浸しけるに、今時の娘おとなしく、仲人をもどかしがり、身拵取急ぎ、乘物待兼ね、尻輕に乘移りて、悦喜鼻の尖にあらはなり。

（其磧「世間娘氣質」）

こはこれ元祿の昔の有樣。されば人間意氣地なく、遊惰となり、國も貧乏となりて、亞米利加の黑船四艘が、六百人足らずの水兵を載せて、相州浦賀を訪れたるときには、町人は固より、武士も腰が拔けて立たず、軍艦の尻が、風向にて、位置を換へるたびに、大變として、一々御注進仕つたる馬鹿らしさ。笑ひ事にならず。元祿に輪を掛けたる今の奢りが、骨身に蝕ひ入れば、五十年も立たぬ中に、また日本が腰拔とならぬとも限らず。一人の身代僅か百二十三圓、年に收入六十圓、石炭の消費高六百萬噸、貿易額九億二千萬圓。世界一等國歷々の大身代に較べての貧乏の花盛り、借金ばかりは、餘所並みに二十二億七千六百萬圓となりて、利子丈けに、一億六千七百萬圓を拂はされ、陸海軍の費用に一億八千六百萬圓を取られて、小い𦙾𤢖に重い鎧、國民の息使ひ、馬車馬の鼻の如し。また何の餘裕あつて、しやなり〳〵とめかしこむを得んや。

然るに、この遣り繰りの苦しい最中にも、左の如き話あり。

つい此頃の事、隣家の娘が尋ねて來たので、家内一同打揃ふて、四方山の話に、暫し時を移した。所がその娘がかやうな事を言ひ出した。

私は、どうしても、虚榮心か止められない。虚榮心は、私の天性です、私にい〻着物さへ着せて呉れるなら、三度の食事は、喜んで二度に減じましやう。止むを得ざれば、一度でも忍びます。

余はこれを聞いて、實にびつくりしたが、しかし多分冗談だらうと思つたので、笑ひながら、聞き直して見た所が、娘は眞面目に、前言を繰り返したのである。余は始の中こそ、驚きもし、腹も立てたが、後には寧ろ可愛想になつた。斯る考を以て居る女子は、豈獨りこの娘のみならんや。赤裸々にして、心の眞底を叩いて見たら、天下には、この種の女は隨分多いことであらう。現に余の知人の三十圓取の先生が、新夫人から、金側時計を强請られ、其後腹の癒えぬ中に、寶石入の指環てふ難題を持ち掛けられて、つい愛想をつかし、破鏡に及んだ事も、よく知つて居る。

その娘といふは誰か、妻といふは何人か知らざれども、實に呆れた婦人なるものかな。しかし、これは一人や二人にてはあるまじ。隨分往來にても、そんなのを見るやうなり。斯る奢りの上手な女に限りて、家事は下手にて、親や夫をせびり立て、身代を滅茶々々にさして、あれが〳〵といひ死に、親や夫をして仕舞ふ手合なり。

國家とは、國と家となり、家貧にして、ひとり國富むの理あらんや。日本が今日貧乏にて如何に苦しんで居るか〻分りたらば、その覺悟にて、婦人も締り、働かざるべからず。

今日日本が貧乏するは、息子が道樂にて先祖代々の大身代を使ひ果した落目の貧乏とは譯が違ふにて、今始まつた貧乏にあらず。尤も昔から見れば、今の日本は、較べものにならぬまで富めるに相違なきも、世界列强に比すれば、殘念ながら何分貧乏にて、その列强と駒を並べて進み、一足も馬の鼻づらを、前へ出さんと思はば、この貧乏では、とても行かず。乃ち今日の貧乏は、落目の貧乏にあらずして、先に樂しみあり、見込みある貧乏なれば、火の消へたるが如く、陰氣に、雨に濡れたる如く、消然たるに及ばず、勇ましく、この貧乏を受けこらへて、一方儉約すると共に、一方大に產を興すやう力行すること肝要なり。これでもまだ合點が行かず、奢侈に耽る婦人あらば、そは日本に用なき婦人、日本の婦人にあらずと知るべし。

（正誤　前號社說第二段第六行「二十三圓」は「百二十三圓」の誤り。同十一行「〇二三圓」は「一二三圓」の誤り）

社告

御承知の通り本誌は非常の部數を毎號印刷致居候とに候間前金切れの御通知一々致兼候に就ては右事情御諒承の上雜誌代前金切れの諸姉は此際御拂込被下度願上候　敬具

新大統領夫人より愛國婦人永持主任への來狀

昨冬タフト氏が選擧の結果、ルーズベルト氏の後を受けて新に米國大統領となることに定りましたので其當選を祝するの微意を表した書狀をタフト夫人に呈し且つ我が「愛國婦人」及び愛國婦人會英文規則を永持主任者の名前を以て差上げました處が左記譯文の如き懇篤なる御返事が御坐いました。これは常に發行所の愛讀諸姉と共に光榮に存ずる處で御坐います尚原文は寫眞版に致し、本號第二面と三面に掲げて御坐います。

親愛なる永持君足下

御手紙及び雜誌幷に愛國婦人會規則本日正に落手致候就ては何卒御會貴婦人方各位幷に岩倉公爵夫人の御厚情に對し貴下より然るべく感謝の微意申述置かれ候やう御依賴申上候

尚又世にも類稀なる貴會御事業の前途に對し彌が上にも御成功の程念じ入り申候

千九百九年一月一日

ヘレン・エッチ・タフト

附けて此處に申上げて置きます。タフト夫人の肖像及び夫人の面影を寫し出した文章は「愛國婦人」百六十五號に掲げて御座いますから、それ等のことは同號にて御讀み下さるやう願ひます。尚又右同號をば別製いたして昨年タフト夫人に差上げたので御坐いますから、左樣御承知置きを願ひます。念の爲め以上申上げ置きます。

創刊明治卅五年三月廿七日●定價一部金二錢五厘
半年分金四十二錢●全國無遞送料●廣告料一行六十錢
發行所東京麹町區牛ヶ淵公園内愛國婦人發行所●
發行兼印刷人山澤俊夫●編輯者永持德一●全部禁轉載

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

最善の料理は何か

男爵　石黒忠悳

一、

料理法の特色に就いては、日本、支那、西洋、いづれも各々優れたところもあり。また劣つたところもあるのであつて、何れの料理法が第一位にあると云ふ事は、鳥渡云へないのである。何故かと云へば一體に此食物の料理と云ふ事は、人間の嗜好に基しものであつて、吾々人間の嗜好にさへ投ずれば、それて充分であらうと思ふ。それ以上の事は、つまり個人性としての議論となつてしまふのである。

それて日本人には日本料理が一番適當してゐるだらうし、支那人には支那料理が一番適當してゐるだらうし、西洋人には西洋料理が一番適當してゐるのであらうと思ふ。それは各國人の嗜好によつてそれぞれ今日のやうに發達して來たのであるから確にしか信ぜられるのである。

而し乍ら之を衞生とか、滋養とか云ふ方面より考へて來れば、又各特長があらう。其特長をとり短所を補ふ事は、我々文明人の須臾も怠つてはならぬ事である。

二、

およそ人類の生存に必要なる要素が二つある。第一は食欲と云ふ事と、第二は生殖作用と云ふ事である。人類が子孫繁殖の意義を全ふするには、云ふまでもなく生殖作用が必要である。けれど之がもし人間慾望と云ふ上からして、さ程必要てないなら、決して此意義を全うする事は出來ないのである。即ち生殖作用に伴うて戀とか色とか云ふ、之がためには生命をも捨ててしまふと云ふ程に、大なる快樂が伴はしめてあるのだ。實に自然の配劑と云ふものは、驚くべきものだ。

孟子が云つたやうに、色食は生だ。しかし、我々のやうに斯やうに年をとつてしまつては、もはや生殖作用の必要はない。

が、生存して居るからは食つて行かねばならぬ。人間が生れるときから死ぬまで必要なるものであるから、自巳生存の意味よりして、十分食物の改良進歩を促す事が肝要な事であるに相違ない。

三、

我輩は下劣な道樂をした事はないが、骨董とか、食道樂は隨分したものだ。東京て有名な料理屋の御馳走てあれば何と云ふ料理人がこしらへたものと云ふ位はすぐに食ひわける事が出來る。

しかし世間には、隨分根生の卑しいものもあつて、「器ばかりよくつても、貰つて歸るわけには行かないから」と云ふのであるが、さう云ふ賤しい事はない。同じ煮物ても美しい器に入れて出されるのと、汚い器に入れて出されるのと、どちらがよいかと云へば、云ふまでもなからう。つまり食物にも美と云ふ事が缺けてはいけぬ。

そもそも人間の食物嗜好の程度としては、三つの階段がある。その一は食慾を充せば足るので、お腹さへ膨るれば、それてよろしいと云ふ事て滿足するもの、その二は、更に進んで人間生存上に必要なる生理機關に適合したる滋養と云ふ事を重んずるやうになるのてある。その三は、それから更に進んで美的嗜好が伴うて來るのである。

要はすべて食物は滋養分が多いからばかりては眞の滋養にはならぬ。快感を起す事が極めて肝要てある。

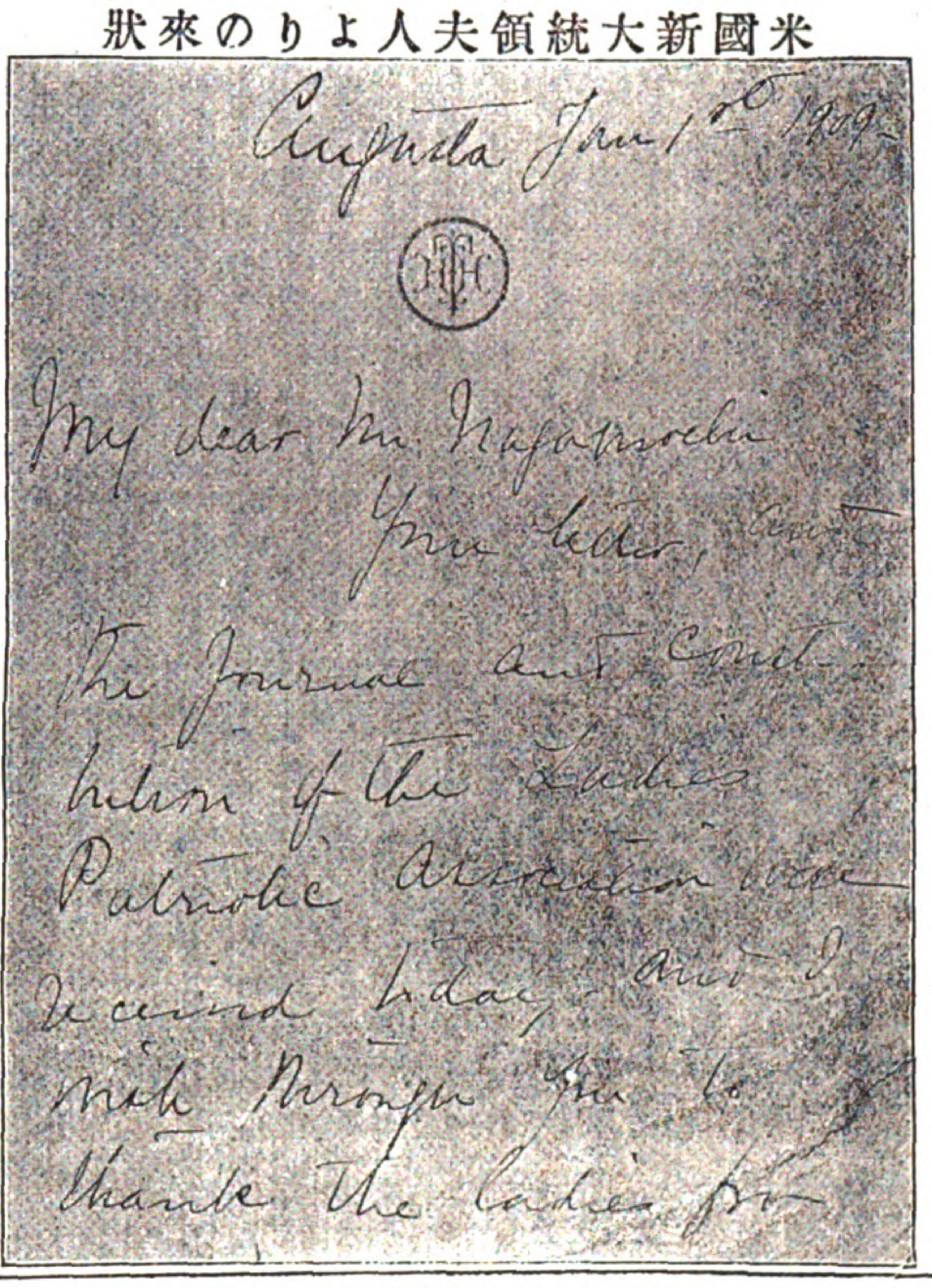
四、

支那料理に就いて自分が殊に感心してゐる事は、道具の簡單なる事てある。彼等が料理するを見るに、庖丁一つ、鍋一つて、何でもやつてゐるのてある。日本料理もしくは西洋料理のやうに、種々の道具はいらぬ。其點に於いて日本の家庭に極めて應用しやすいと思ふ。

次に自分が感ずる事は、日本料理のやうに生食をせぬ事てある。何ても非常によく煮て食ふ事てある。これは至極衞生にかなつてゐる。

たゞ、しかし支那料理には美的要素が缺けてゐる。飾りがない。自分は思ふに支那料理に對して日本料理流の飾りをつけたらば、おそらく此上なしのものが出來るのてあるまいか。此邊が大に研究すべき問題てあらうと思ふのだ。

米國新大統領夫人よりの來状


Augusta Jan 1st 1909
My dear Mr. Nagamochi
Your letter, ...
The Journal and contribution of the Ladies
Patriotic Association were
received today and I
wish through you to
thank the ladies for

建國時代に於ける我國の婦人(三)

流水生

これ等のことが相依り相助けて婦人の宗教心を強くする。これも疑ふ餘地の無い古來からの定論且實際上動すべからざる事實てあります。

されば古今東西何れの宗教に於ても布教者の第一着に引きつけやうとするのは婦人てあつて、また實際婦人が早く且つ多く引きつけられるのてあります。從つて婦人の精神は概して宗教上の感化を及ぼされて居ることが多い。

宗教と云つても種々あるのてありますが、先づ佛教ては婦人を如何なるものと說いて居るかと云ふに、佛教の女性觀は最も極端であつて、女性は慈悲絕對の諸佛諸菩薩にすら、救濟の見込なしと棄てらるゝ程罪業の深甚なものと說かれてある。基督教ては何うかと云ふに、弱者を憐むと云ふ主義から、婦人の人格を重じ男女平等としてあります。處て儒教は何うてあるかと云ふに、明らさまに男尊女卑と云ふことを唱へて居る。が、併し男女の關係をば人生の大事と唱へて居ります。

かゝる宗教上の種々の女性觀が、男子よりも比較的に宗教に接近して居る婦人の心に——殊に現代の婦人の心に重大の影響を及ぼして居ることは疑ふべからざることてあり。就中、極めて古く我國に渡來した印度の厭世主義、非現世主義消極主義を受けて起つた佛教の主義が、現今でも我國の婦人の思想に甚大なる影響を及ぼして居ることは疑ふべからざることてあります。

が、併しながら我國建國の精神が樂天主義、光明主義、現世主義てあつた如く建國時代の我國婦人の精神には、決して印度思想のやうな非現世主義、厭世主義などが厘毫ても混つて居らなかつたことは疑ふべき餘地がないと思ひます。

處て、何故我國建國の精神は光明主義現世主義てあつたかを述べ、つゞいて少しく建國時代の婦人の精神に就いて述べて見たいと思ひます。

我國建國の精神を知らんと思へば、これを我國上世の歷史に照し、これを研究する他に方法はないと思ふのてあります。

歷史の記せる處に從ふと、天地開闢の當初に現はれ給へる神々にはタカムスビノ神と云ふやうにムスビと云ふ名を被ぶらせられて居るのがある。此ムスビと云ふのは生々を意味し、繁殖を意味し、豐饒を意味して居るのてあります。また我國土の總てを括めて生國とか足國とか云つて居つた。足國とは萬物充足して居る國との意てあり、生國とは生々主義の國土と云ふ意てある。これ等も我國建國の精神を現はして居ると思ひます。

また、太古から劍、鏡、璽の三つを皇位繼承の印、三種の神器として重んぜらるゝことは我が國建國の精神が何處に在るかを知るに最も便利だと思ふのてあります。

北畠親房は「鏡は一物を蓄へば、我の心なくして萬象を照し是非善惡の姿顯はれすと云ふことゝなし。これ正直の本源なり。璽は柔和善順を德とす。慈悲の本源なく。劍は剛利決斷を德とす。智慧の本源なり。」と云つて居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子教育に於ける根本的準備(一)

學習院女學部長　松本源太郎

學習院女學部長松本氏を其校に訪ふ、蓋し女子教育に關する氏の意見を聽かんが爲なり。談は先づ「近來自己意識の發達に伴ひて往々我儘勝手なる利己主義に陷り、國家社會に對する觀念の缺乏は終に忠君愛國の美風を失はんとする傾あるが如し、如何にしてか、る惡弊を矯正し得べきか」との記者の質問に初まり、轉々教育談に亘りて數千言、上流家庭の子女教育に對する氏の意見として其一端を窺知するを得るか敢て無用にあらざるべきを信じて、玆に其梗概を紹介するものなり。(相良生)

所謂西洋主義の輸入により我國の思想界に多大の影響を及ぼした事は申すまでもないことて、其結果樣々な思潮傾向を生じ來つて一利一害、中に就て自由思想の發達は時には好ましからざる方面に病的發育をなして、所謂利己主義の一點張、國家とか、社會とかの福利榮達を計るといふやうな美風を捨て、顧みないと云ふが如き傾きあるは、男子の側に於ては確かに認め得ることてありますが、果して婦人社會に於ても同樣な惡傾向があるかどうかはよく存じませぬけれども、男子に於て既に左樣だとすれば女子の方面に於ても亦か、る傾向が無いとも限りますまひし、或は有るかも知れませぬ。これは少し別義に解すべきものかとも思ひますけれども、近頃或たしかな方から伺ひました事なのてすが、一體從前の婦人は其結婚の時に於ては夫の現在の位置や名譽が何うてあらうとも結婚後に於て夫婦の協力勸勉により、將來を期して十分なる幸福を得やうといふつまり夫婦それ自身の努力によりて自身の運命を決しやうといふ堅實な思想が有つたやうてありました。

處で近來の處女はどうかと云へば、勿論皆がそうてあるといふてとてはありませぬけれども、往往一攫千金的、或は所謂氏なくして玉輿といふやうな夢幻を想慕して、自己の人格や位置の如何を顧みることなく、一躍直ちに準備せられたる幸福中に飛び込んて、勞せずして自由放逸なる生活に快樂を貪らんとするが如き浮薄輕跳竊りなき希望、想念を懷いてゐるものが生じて來たやうてある、といふやうな話を聞いた事もありましたが、これらもどうかといへば、つまり我儘勝手な自由、利己一點張といふやうな心持に原因してゐるものとも解し得られますので、斯の如き不埒極まる妄想に驅らるることからして、やがては國恩を忘れ來恩を思はないといふ惡現象を來すのてあつて、いづれにしても困りきつた事てあると考へます。

それや是やて兎に角現在婦人社會の有樣は安心すべき時て無いのて。互相注意せねばならぬ場合てあらうと思ひます。

御承知の通り私はいまだ深く婦人の研究を試みた事もございませぬし、又直接女子教育に從事したる經驗も少ないことてありますから、これぞといふ名案を有してゐる譯てはありませぬけれども、又多少の考がないてもありませぬ。といふのは、是は誰れても承知の事て、理想的の婦人を養成しやうとするには、必然理想的の教育を施さればなりませぬ。理想的の教育を施す必要條件としては又必ず理想的教育家を得なければならぬといふ順序になりますので、特に女子を教育するといふ事に於て一層完全な教育家の必要を感ずるのてす。私は常住教育の成否は一に教育者即ち教師や父兄の力に屬するものてあると信じまして、萬一不結果に終つたといふことがあれば、そは全く教育者の罪と認めて居ります。

女大學に含まれたる眞理は今も活用さる(上)

文學博士　前田慧雲

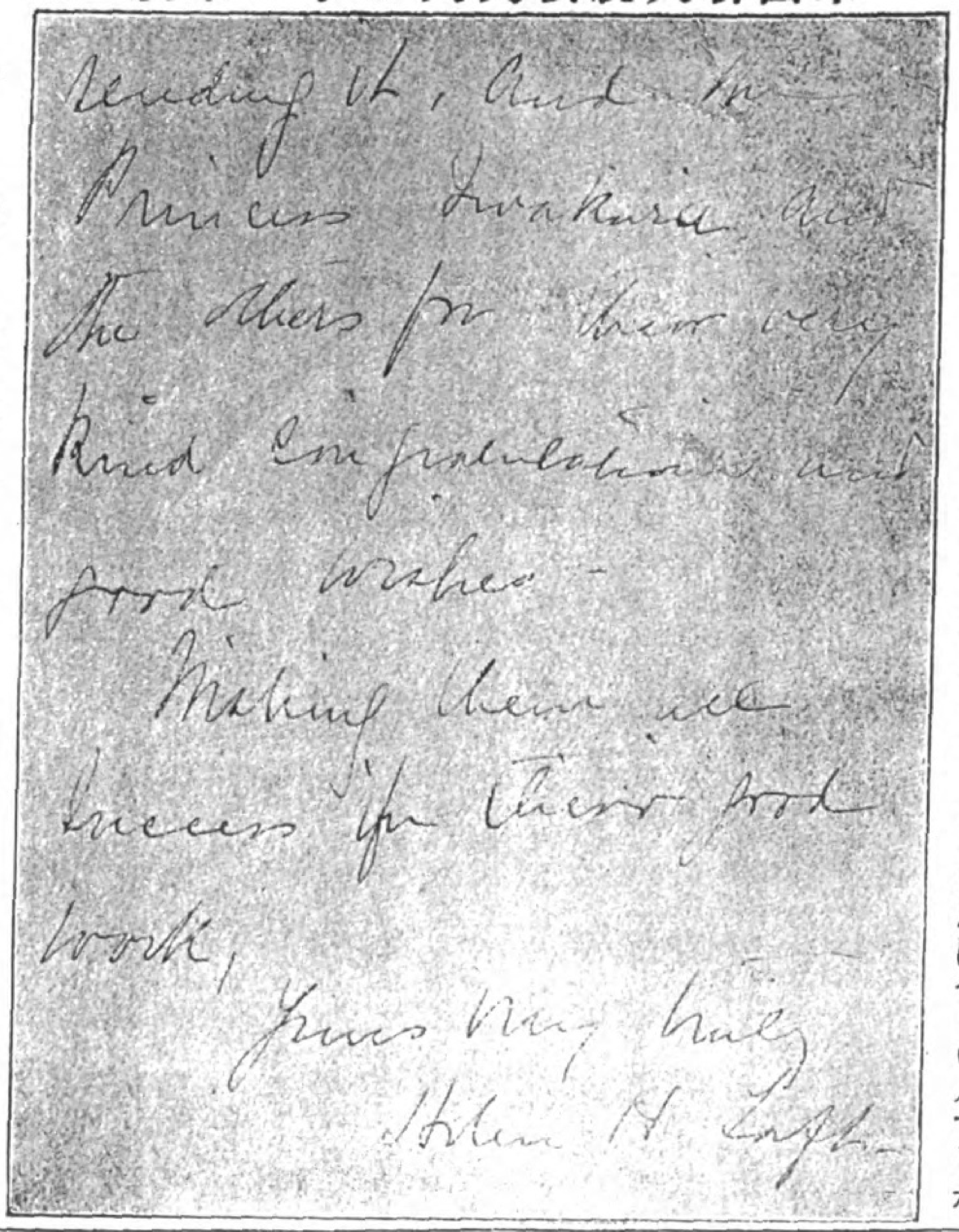
古いからと云ふて一概に排斥をしてはならぬ、從來の家庭に於ては是非とも女は讀まねばならぬ、否、どうしても守らねばならぬものと定つて居つたものがある。それは往昔からある處の女大學と云ふものてある。近頃の若い人は皆彼のやうなものては、詰らないからして當世の事情に適合する處の道德を教へなければならぬと云ふて、今ては新女大學と云ふやうなものが出來て居ると云ふことてある。昔の女大學の中にこれを日に一遍づつ讀めと云ふことが確に書いてあつたと記憶をして居るが、自分は其日に一遍づつ讀めと云ふことが至極結構なことてあると思ふ。

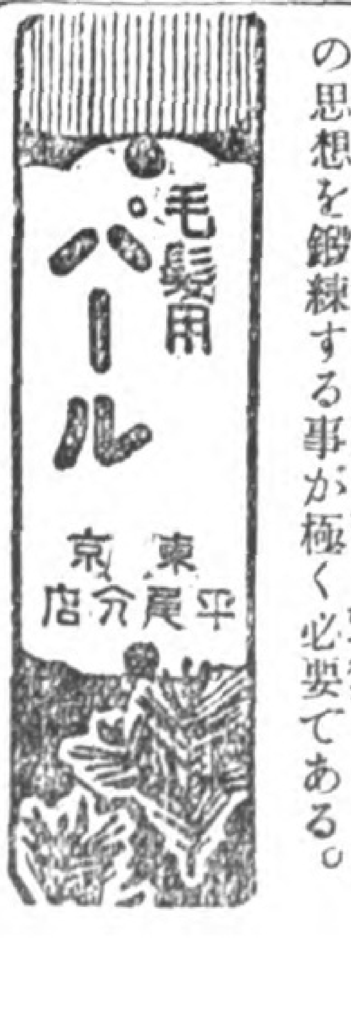
今の人は無暗に昔の女大學を排斥するけれども、何もそんなに排斥す可きものてはあるまいと思ふ。成程今日の事情に適せない、即ち現代の婦人道德としては不足の點もあらう、けれども實際あの中には婦人として換ゆ可からざる道德の根本眞理が含まれて居るのてある。これに被せ掛けてある着物が不幸にして今日の時代には適しないのてある。がこの着物さへ現今の事情に適するものを以てゆけば、必ず女大學の中に存在して居る處の道德的の根本の眞理は生き復つて來るものてあつて、さうなれば今日の人ても是非とも服膺せんければならんことてあらうと思ふ。

それは何てあるかと云へば、服從と云ふことゝ、貞操と云ふことてある。これは昔も今日も別に變らん、婦人道德として是非とも守らなければならんものてある。その服從と云ふが如きも今日ては無闇に服從ばかりして居つてはならんと云ふことを云ひもするけれども、乍然女に服從と云ふことを缺いて仕舞つては——西洋は兎も角、我日本の家庭としては決して平和と云ふことが保たれない。日本の婦人は何處までも服從と云ふことが道德的の一要素に成つて居る。只其服從と云ふことに就いて、形、姿が變るだけのことてある。其服從の形、姿は昔と今とは違つて居るに相違ない。が、服從其者は決して今も昔も變る者てはない。貞操と云ふのも矢張りこれと同樣な譯てある。昔てあれば一生二夫に仕へん。夫が死んだ後も他にかしづくと云ふやうなことは許さん事てあつたけれども、今日てはそんな窮窟な事は行はれないが、夫を持て居る間と云ふものは矢張り二夫に仕へんと云ふ覺悟は何處までも守つて行かなければならん者てある。さう云ふ譯てあるから昔の女大學を無闇に排斥す可きてはなからうと思ふ。其服從貞操と云ふ事も日々其に就いての教訓と云ふ者を受けて修養をして行かん事になると知らず〳〵の間に服從と云ふことも貞操と云ふ事も缺るやうな事が出來て來る。

夫で修養と云ふ事は、知識或は學問と云方とは餘程振合が違ふ處の者てある。學問は一度聽いて其理窟が解れば其てよい。又同じ事を幾度も聽く事は入らない。が、修養と云ふ者は決してさうは行かない。理窟が何の位解つても亦道理ヶ幾許合點しても、それて好い理の者てはない。何故と云ふのに、此人間には即ち欲と云ふ者がある者てあるから、又其欲にも矢張習慣がついてまわつて居る、其欲を抑へつけてこれまての惡い習慣を取り除くには決して一度や二度て行く者てはない始終斷へず其欲を攻擊し惡習慣を打破つて何處までも抑へつけるやうにして行かねば充分な修養の效果を表はす事は到底出來ない。其處で每日よい教訓を聽き、又每日自身の頭の中に自分に守る可き所の思想を鍛練する事が極く必要てある。

米國新大統領夫人よりの來狀(二)


sending it. And the
Princess Iwakura and
the others for their very
kind congratulations and
good wishes —
Making them all
success for their good
work,
Yours very truly
Helen H. Taft



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

古今名婦鑑（一）　鶯所

筐の小袖

佐介左京亮貞俊は、鎌倉北條の一類にて、武略すぐれ、才智ありしかど、相模入道、させる人とも思はず、深くも用ひざりければ、常づね之を恨み居たりしが、或戰の寄手に加はりて、大に破れ、遂に降人となりて、阿波國に流されたり、程なく降人ども、皆々斬らるべき事となりしかば、或法師を頼みて、佩刀、鬢の髪などを、故郷の妻に送るとて、

みな人の世にある時は數ならで憂にはもれぬ我身なりけり

と詠て、首を討たれけり、法師は筐の品品、並びに最後の時に着たる小袖とを持て、鎌倉に下り、妻の女房を尋ねて、其を與へければ、女房之を聞き、只涙に咽び居たるが、暫ありて法師に語りけるは、今迄も良人が恙なく歸り來ん事を、待ちに待しが、今は早頼みなし、此上は一日片時も生て、此世に在るべき心地もなし、嬉しからぬ命を永らへ、心ならぬ浪にただよひ、物うき身を屈をらし侍らんよりは、只同じ途に赴きて、一つ蓮の臺の縁を結ばんとて、傍へにありし硯を引よせ、筐の袖のつまに、

誰みよとかたみを人のとゞめけん絶てあるべき命ならぬに

と書き付け、其小袖を引かつぎ、刀を胸につき立てゝ、終に空しくなりにけり、

家庭料理

津川千代子

熏頭肉（支那料理）

材料　一豚のもゝ肉、一醬油、一胡椒、一かたくり粉、一ラード、一葱、一生姜、一スープ、一鷄卵、一酢、一鹽、一ほうれん草、

豚のもも肉を三分位の厚さに切りまして、それに裏表に庖刀目を下まで切り通さぬやうに入れまして、六七分位の角に切り、醬油少しの中に胡椒少々を入れその中にしばらくつけておき、かたくり粉豚肉百目に茶呑茶椀かるく一杯程を水でゆるく溶き、しばらく靜かにしておきますと粉は下に沈んでしまいますから上のすんだ水をすてて、かたい處を前の肉にまぜて、ラード又はヘットの充分に煮たつた處に入れて揚げます。

別の鍋にきれいなラード少々を入れ、その中に葱一二本を細かに切つて入れいため、生姜も一トかけ程みぢんに切つて入れスープを入れてゆるめ鹽と胡椒と醬油と酢ほんの少しとを入れて味をつけ此の中に前に揚げた肉を入れて一寸煮まして、青みにほうれん草か又はこまつ菜でも少しを細かに切つて入れまぜておろします。おろしぎわに鷄卵一個をといて此の中に流し込み直におろします。

講談　鳥居強右衛門（二）

大島光利口演

強右衛門頭を下げて愼て聽き終り、太き溜息を吐て頭を上げ、母の顏を熟々と打守り、物凄き双眼にハラハラと落涙し、

強「ハッ御教訓宜く解りました。箸とらば天地御代の御惠み父母や主人の恩を味へ。との古歌の意味も忘れ申さん。不孝には似たれども拙者なくとも老ぬる貴下はうからやからの、世話なし申すべく、直に心を決し御城内へ馳參じ申さん、之今生の御暇乞となるや計り難し、前世の約束と思召し下されよ、其代り決して人に笑はれ申さるまじ、之ぞ母上の教訓此上なき賜物にて候ぞと、其儘身支度をなし、古びたれども大小を帶み、大身の槍を提げて御城内に入りました。此話を聞く方々は強右衛門の決心、母の教訓共に感歎已まずして強右衛門を其儘城内に止め置くに、重役を敬ふと雖も敢て諂はず武士道鼓吹に適ふ事のみ多ければ、一同の同輩に交るに巧言令色なしと雖も、決して無禮の言を發せず、天晴れ武士道に叶ふ、九八郎貞昌公は親しく目前には見給はねど、奧平の重役は朝夕之を視て、末頼母しき壯者よと、目をかけ使役を致して居る。然るに甲州の勝頼は奧平九八郎松平彌九郎の兩人長篠へ籠り、甲州の招きに應ぜず叛狀明白なりと聞及び、怒髮天を衝て憤り、好々憎むべき奧平親子の振舞かな、ソレ人質を引出せよと、奧平美作守貞能の伜、仙千代丸と云へる、幼き兒を荒繩にて縛し上げ直ちに甲州より遠州へ引立て、衆人の目前にて逆磔にいたしたるは觀者身の毛の彌々逆立ばかりなりし。之を聞きたる長篠城内の奧平九八郎は益々反動の心を加へ、勝頼の慈悲なきを怒り、決死の覺悟を以て籠城なし、大手搦手矢倉多門總ての要害は僅八百人の小勢を以て配置なし楯の板を鷄羽に組並べ、弓鐵砲を狹間はざまに配置なし、敵寄せ來たらば三河武士の手練を見せんものと、いきまき立て待受たり、然るに勝頼は一萬五千の大軍を引、馬場山縣高坂跡部其他猛將勇卒雲霞の如くに城を圍んで責よせたるは、天地に響きて物凄く岩城川の急流を狹み蟻の這出る處もなし夜は篝火天に映じて星の光りを奪ひ、明れば旗印馬印は翩翻として山風に飄へる殺氣天を衝て恐し手悔なる長篠城何に束の間も堪ゆべきかと城下鼎の湧くが如し時に天正三年五月朔日より息をも吐かず甲州勢は晝夜の別なく責かゝる、然れども長篠城は打てども突どもひるまばこそ防ぎ戰ふ有樣は目ざましくも亦勇まし、何時落つべきとも見えざる故、一同の大將分は勝頼の面前に戰評定をなし、小城と侮り短兵急に責立て空しく味方を損ぜんよりは敵の要害をば味方として城を遠卷になし、二月三月支えなば城内粟つき、兵糧に事缺き、竟には軍門に降伏なすは必定なり、左なくば悉く餓死すべし、是れ萬全の策と跡部長坂の發言にて勝頼公に陳ず、勝頼これを以て妙案としたれど、心ある山縣昌景、馬場信房等は熟々ら思ふに敢て當の敵は獨り奧平のみにあらず、岐阜には織田信長、岡崎に德川家康等ありて實に容易ならざる今日空しく力を費し此城を圍むは大膽の事なりと思ひつき、再三拙策なりと申し述たるが勝頼強て肯かず、いよいよ兵糧責と事決し、只敵の忍び出るを恐れ、周圍をみて嚴重に晝夜を分たず警戒せり。

長篠城内にては敵は只徒らに遠矢を發し、砲彈を送るのみにして曾て戰を挑む模樣なけれど、城兵は小勢の悲しさ城門を排ひて討て出るは是れ自ら死地に入るに異ならず、戰の法と云ふべからず、されば城内より種々なる冷評を敵に送り戰を促せども敵嘗て近寄らず、斯せらるゝ事殆んど旬日を過ぐるに、城内は兵糧に盡き果て、一日々々と兵は疲れ、何れも面色は蒼白を呈し、髯蓬々として顏のなかばを埋め、如何なる勇將猛卒も顏骨高く兩眼窪み、天を仰いで歎聲を洩すのみ奧平貞昌、松平彌九郎の兩將、かくては果てじと諸將に申さるゝやう、倩も卑怯なる勝頼のふるまひかな、兩虎爭へば一虎は傷付き一虎は斃る、之れ武士の戰場の慣なり、然るに敵は味方に二十倍の大軍を以て此長篠を遠卷とし、兵糧責を企つるとは實にや武士道に缺たる卑怯さよ、然りとて敵味方の區別あれば不心得を敵に悟すも由なし、かゝるべしとは岡崎城の德川家康公は御存じあるまじ、此際誰か死を決して此城内を脱し、敵の包圍を脱れ出てゝ岡崎城に到り、城内糧食盡たる事、兵氣の阻喪したる事を、德川殿に對し告げ知らせ、その應援を乞ふ者あらざるか、とは云ふもの、天を翔るの翼なく、地を潛るの術を知らざれば首尾よく爲遂ぐべしとも思はれず、萬一敵に捕へられなば、慘忍刻薄の敵將勝頼、水火の拷問を以て苦めなば、城内兵糧盡たる現狀を敵に知らするものなしと云ふべからず、倩ても手を束ねて八百人城内に斃るゝ事の無念さよ、弓矢の神は我々の武道を守らせ給はぬ淺間しさよ、互に目と目を見合せて無念の涙はふり落とし鎧の袖を濡しけり、打しも遙か末座に一人の兵士あり、兩眼爛々として百錬の鐵を欺き、虎髯左右に生じて威ある事虎の如く、黒革縅の鎧を着進み出たる樣は、天晴れ勇卒と見ゆるが、末座に手をつかへて怒れる眼に血の涙を注いで申し出でた次第は何事で御坐いませう。次回に詳しく言上致しまする。

草枕旅をつねなるかりすらもかへる空には音をそなくなる　長樹

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

實話　妾の見た繼母と繼子（三）

平山訓子

△子の方

併し斯んなとは双方持ち合せて、一方ばかり用意が出來ても、一方が尚元の儘のぎざ／＼ならば、しつくりと圓滿は參りません。て私は又更に彼の子の立場からも工夫して見ました。成程お母樣は私の眞實のお母樣ではない、眞實のお母樣であつたら彼も此もあらうと、私の心には種々樣々お母樣へ對する要求や注文も湧いて來るが、もと／＼なさぬ仲のお母樣でない其人へ、眞實のお母樣程にいろんな注文や要求を持ちかけたとて、それが充たされる筈もなければ持ちかける私が間違へてゐる。眞實の子でない者を、眞實の子と思つて可愛がらうとしても何うしてそれが可愛がれるやう、だが夫にも不係お母樣は、私のお母樣の代りに來て、人の子の私の爲めに親として盡して下さる人、なさぬ仲の他人で居乍ら私の爲めに心を碎いて世話して賜はる方其處には嘸苦心もあらう、辛らい思もあらう、それとしたら、私は何よりは先づお母樣へ感謝の心を以て對せねばならぬ筈、僻見てはならぬ筈、人一倍氣を附けてせめてお母樣に心配をかけぬ樣にせねばならぬ筈、と言つた風に心持を向け代へたらば如何であらう。左すれば丁度與ふる心があつてそれを又受ける心があるといふ如なもの、之てしつくりとお互ひの間が圓滿う持ち合つて行くことはあるまいか、子供の方で其心持で居てくれたら、何んぼ私が蛇心だとて、何をたてに憎まれやう酷くされやう、それ／＼全くお互ひに其心持にゐるに限ると、今度は又子供の心持が闇夜から日が出た如にさらりと私に讀めました。

△外部の注意

てすがまだ分別といふものが出來て居らぬ子供に、此の考へが一人手に出來やう筈はありません、其處は外部からの注意、くだけていへば敎へ込みが必要であります。良人は勿論親類近所の人々へも此心持で居て貰ひ、子供に向つて何かの端には、此心持を嚙んでふくめて、われからいへば可笑しい樣だが、先づ感謝の意を以て此私へ對させて貰ひ度い、左すれば双方互ひに與り心受け心、おかげて一家は圓滿に廻り合せの不幸も幸福にかへられる譯、と又一つ工夫が積んで參りました。て、私は之を良人に計りますと、良人もさうぢやと膝を打つて悅に入り、夫よりは折々子供にも云ひ聞かせれば、それとなく親類緣者近所近邊の者へもほのめかしてくれ、決果は追々と好い方にあがりて、三方揃ひの立派な持ち合せも出來る程になれば、是迄の天地はからりと變りて、誠に早や春日の溫かい想を、親も子も懷くに至つたと云ふ次第であります。それに又斯うなつて參れば、前には思はなかつた互ひの愛情も湧いて來るもので、此方からは子供のことが偲ばれてならず、其心は子供にもうつると見え、彼方ても言ふことと爲すことと僞らぬ心に受け入れる樣樣、巳に早や人の子でもなければ人の親でもなく、自然其處には切つても切れぬ美はしい床しい親子仲が出來て參ります。良人は彼の子の十七歲の折逝れましたか、思ひおくこと更になしといふて、彼の子の事は私に任せたきり、安神してひきとりました。

△自然を僞らぬこと

て私は思ひます、世には往々子供に繼親子といふとを隱し切つて知らしめず、繼親の方でも可成は之を包まう／＼と致すのですが、あれこそ行く／＼襤褸を出す間違の基て、親の方ても究屈な義理づくめ、元より義理にも至らぬは問題外の話ですが、そんな確苦しい無理な義理づくめのとてなく、前項に云ふた可憐な孤兒へ對する同情心から、さらりと溶けた繼母といふ木地を其儘僞らぬ心で接すれば、子の方にも初めから繼母といふことを明かしておいて、之も前項に云ふた無理のない心持から、先づ何よりは感謝の念を以て對せしむる如に仕向け、其間に何方も秘密を持たぬことであると。勿論家庭の內といつても種々樣々一樣ではありませぬから、之を以て萬人の御家庭におす譯には參りませぬが、夫でも多少の御參考には成らうかと思ひます。

同じことを言はれるにしても、直接に其人から聞いたのは左程心地が惡いものてはありませぬが、もしか陰て他の人から聞かうものなら、お互樣腹も立ては悔しくもあるといふが人情、それと同じこと、例令如何程包み切つて居るとしても永い間には箔も剝げる、たとへ何時迄知れずに濟みましよう、それがふと思ひ掛けなく何かの端に露はれるとなりますと、初めて知つた心持は今迄知らなくて濟した丈け、それ丈け妙に大事らしう響くものであります。此處らの機微からなづかれましたら、私の經驗もに詰らぬ乍ら成程ときいて頂くふしはあるかと思ひます、ホヽヽヽヽ永々とお耳の汚れ、お許し下され、年寄はやはりくどうていけませぬ。

* * * * * *

さら／＼として僞らず飾らぬ經驗ばなし、何れ程か是からと云ふ若い者や、巳に世に六ヶしい繼親子をなした人々の參考になることとてせう、年々歲々幷死の人が絕えねば、不幸な廻り合せの繼親子にも絕えぬ世に、斯かる面白き心々の持ち合せから、その不幸を幸福に返すことが出來れば、社會の幸福又歡喜は此上もありますまい。（完）

南北　小栗風葉、眞山青果兩氏著

南　風葉氏　世間師……惰力　櫟死人……後進

北　青果氏　溫泉の宿……爐傍　知己の一人……幼稚園　河名のお牛……

正宗得三郎氏意匠　四六版洋裝　全壹冊本文三百五十頁　實價金八拾錢　郵稅八錢

後藤宙外氏著　**裾野**

▲讀賣新聞評▼……眞に是れ宙外氏が多年努力の功績を示せるものにして、特に其最近の諸作に於ては、自然派文士の題材描寫以外別に高潔神秘なる一境地を開かんとするの苦心を窺ふべく文學的價値を有すると共に、また純潔なる家庭の書齋に備ふるに足るの書籍なり、後世の明治文學研究者に取りて紅葉全集、樗牛全集及び最近の自然派諸作と共に必ず一覽せざるべからざるものは蓋し本書ならん。

鰭崎英朋氏書　木版二葉挿

前編　後編　全貳冊　實價金貳圓　郵稅金十六錢

◎洋裝美本本文二千頁大冊帙入◎

初版▲本月二十日出來　賣切▲再版

小川未明氏著　**惑星**

本書目次

日蝕　櫛　暗い空　曉　老婆　捕はれ人　酒肆　北の冬　麗日

美しきロマンチックの夢より破れて神秘派の傾向に至れる未明氏の作なり、其いかに本篇に脉々として懷疑、不安、暗愁の情緖が浸透せるかを見よ。以て此のアナクロニズムの作家の面影は躍如たらん

（田代曉舟氏口繪　四六版洋裝美本　定價五拾五錢　郵稅金六錢）

東京日本橋通り四丁目　春陽堂

專賣特許　**一森式坐椅子**

此坐椅子は一箇にして下圖甲乙丙丁の如く坐椅子となり寢臺となり疊込めば縮少して携帶に便なり

材料は鐵骨にエナメル又は漆を塗り之に厚布を張り後頭部の觸る丶所には螺旋狀の枕を裝置しあれば枕と厚布とに身體を支ふるにより心地誠に宜しくて產婦は固より强壯の人と雖も之れ老人倚りて休息し又は讀書を爲せば自然に胴部を擴め健康を加ふ

價格
エナメル塗更紗滑圖付　金六圓五十錢　特製　金七圓
エナメル塗メリンス友禪又は舶來模樣毛繻子滑圖付　金七圓五十錢　特製　金八圓

其外上等品はお好に應し調製仕可候

製造發賣元　東京市芝區下高輪町廿一　電話新橋三〇六五番　樂民堂

特約店　東京　三越吳服店
同　大阪　常磐商會

販賣店　大阪市西區土佐堀裏町六八　電話(長)四一八二番　東京市京橋區銀座三丁目　電話新橋六五六番　鈴木毛織物店

同　橫濱市住吉町五丁目六八　電話一〇七二番　杉野亥之助

△取賣店御希望の向きは樂民堂へ御申込相成度候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

△有栖川宮妃殿下の御近状 を漏れ承はるに昨年御世嗣栽仁親王殿下を喪はせ給ひて此の方萬物爲憂げに渡らせたまふは然る事ながら妃殿下には片時も大君國民の事を忘れさせ給はず此程より朝夕御勤學の御暇に新聞紙上に漏れたる御製と御歌とを各十首づゝ撰ばせたまひ御自身座右の銘となさせ給ふと承まはるぞかしこき、扨撰ませたまへる御座右の銘の御製御歌は共々に御歌振優れて御句高きは申すまでもなく一度拜誦すれば國民の心の底に泌み渡る許り御仁慈の德畏からざるは無き中にも

御製

器にはしたかひなから巖をも
とほすは水の力なりけり

谷川もせかは溢るゝ山水の
心や民のこゝろなるらん

御歌

とる筆のあと耻しと思ふかな
こゝろのうつるものとしりては

大宮の内にありても寒き日に
如何なる山をきみはこゆらん

などいづれ教訓の御心深く籠らざるはなし斯くて二十首の御製御歌をば高崎御歌所長に揮筆仰せ付けられしより高崎男は鳥の子紙の紫雪棚引ける模樣あるに謹書して年久しく出入りせる表具師に裏打を命じ先頃出來妃殿下の御許に屆けまゐらせたりと承まはるぞかしこき

▽女學校出身者の宮仕 宮中御內儀の事は九重の雲深くして一般臣民の知るべからざる事なるが近頃各御用邸各宮家に至るまで文明の教育を受けたる婦人を侍女に召さるゝにや承まはるに就き聞けるまゝを爰に記さんに女學校の出身者にして現に女官たる人々は權典侍從四位園祥子、同正五位姉小路良子、權掌侍從五位藪嘉根子、同吉田班子、命婦從六位生源寺伊佐雄子、同樹下宛江子の六名は何れも跡見女學校出身、又靑山御所に奉仕せるは板野すゞ子、足立孝子、渥見千代子、荒川玉子、清水重子の五名にして、荒川氏を除くの他は孰れも女子高等師範學校の出身者なりと

▽家庭教師の渡淸 東洋婦人會附屬淸國派遣女教員養成所にては淸藤秋子氏主任として夙に派淸女教員養成の事業に從事しつゝあることとなるが現に淸國に在るものは新井みむろ子、酒井よの子、川島あさの子、手塚かづを子、楡井よし子の諸氏にして本月末近藏しづ子、岩倉美代子の兩孃も遙々淸國の招聘を受け渡淸するとぞ男子の手にては及ぼしがたき方面に對し斯く女子の活動することは國家の爲に慶すべし

齒の白くなる植物性のオペラハミガキ發明せられ大々的好評なり

▽遙々と足袋縫研究に上京 の卒先者となりし殊稱なる心懸けの婦人續出せることは大いに特筆せざるべからず昨年の恰度今頃一女の指十本て軍艦を造る法」と題し野中女史が足袋縫の事に關に熱心に本誌に書き誌されしは讀者の記憶したまふ處なるべく其後各地方より通信教授はなきやの書面續々到來せしが今回に到り栃木縣那須郡愛國婦人會幹事部長田上こい子には幹事瀧田つね子と共に此足袋研究の爲遙々上京せられ研究の上は歸國して郷里にも大いに此足袋縫の研究を擴めらるゝ志なりとは聞くだに賴しきことゝもなり尙又山梨縣東山梨郡の廣瀨つる子にも同じ目的にて遙々上京され三女史共に目下牛ヶ淵授產場にて熱心に研究せられ他にもかゝる殊稱なる婦人も續出せん模樣なりとは慶賀すべし因に記すつる子女史は三等有功章を、こい子女史は二等有功章を有せられ、いづれも會に對する非常の功勞者にして就中こい子女史の如き稚き乳呑兒と姥姆さへ伴ひ上京されしとは此方なき篤志のことゝ云ふべし

▽奥村女史の墓碑寫眞と紀念寫眞鏡 本會記事面にも記せる如く奥村五百子女史墓碑寫眞及び同上石摺は有志の方々に限り特に實費にて頒つべく寫眞は本會記事面に出せるもの及び繪附錄とせるもの二種いづれも實費三十錢、石摺は記事面に寫眞版に出せる墓碑銘三種にして約七十錢の實費を要すと云ふ尙又奥村女史三周忌紀念として本鄕元町一丁目十四番地進成社より奥村五百子女史紀念顯微寫眞鏡と云ふを賣出せり這は時計用その他の裝飾に適するものにして定價はセルロイド側一個廿五錢、金屬側三十錢の由なるが見本として婦人會各支部へも近日贈呈するにや聞けり

俳句

內藤鳴雪選評

天　百歲の翁おはしぬ春の山　東京　中山芳子
評　めでたや

地　のつそりと富士の高根や冬の月　大分　多風　氷柱
評　すごや

人　紅梅に笛吹き居るや狩はかま　京都　露　緒子
評　なつかしや

秀逸

榾火焚く翁の膝の小猫かな　臺灣　中島かれ子
初冬や造り酒屋の軒の杉　京都　今田年子
袴着の兒うつくしや梅の花　京都　武田つる
山茶花にあたゝかき日の當り兒　長門　鷹田艮子
木枯に吹き散らさるゝ鐘の音　岡山　四村てふ子
凧や京の紅屋の片戸さし　福井　入木千代子
冬風の亂抗高し鴫の群　青森　竹林秋子
凧の榾に上る子供かな　岡山　坂田元子
踊り咲く裏の茶畑霜白し　静田　栗山てい子
我耳の疎くなりけり冬籠　岡山　四村長子
春雨や長き文書く小傾城　東京　牧野輝子
座譚する人ぞ饑し年の暮　岡山　世應龜子
餞びんの沸き立つ音も夜長哉　橫濱　上杉らく
春の日に若紫の芽一寸　東京　山本ふみ
梅の花一枝乞はん小田の庵　岡山　清水梅子
舟の窓に見ろ島々の霞かな　備後　妹尾常子
燒芋の太さを撰む寒さかな　青森　田島正子
孫を背に長閑に唄ふ嫗かな　東京　芳賀リュ
春の草小さき手もて拔かれ兒　東京　牧野元子
美しき花二三輪枯野かな　青森　馬場ちよ子
奥竹を床に活けたり宿の春　美作　八木清子

於淡路島博覽會 名譽大賞牌受領
最上醬油
キハク印
香
キハク印
醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます
釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　電略(キハク)又(ヤハ)
東京支店　日本橋區小網町三丁目　電話浪花五七七四　中野長兵衛

小兒病一般　醫學士　福田謙之
●京橋區南鍋町風月堂斜向
●宅診午後(電話新一八八一)

文部大臣認可
私立麴町高等女學校　生徒募集
麴町元園町二ノ四麴町三丁目停留所側(電番町一九二〇)
募集學年本科一二三四年◎技藝科一二三年◎尋常小學卒業者(舊高等小學二年修了者)は無試驗編入す　出願期日三月三十日限り◎規則入用の者は郵券二錢を添附すべし

登錄商標

警視廳免許　天下一品
しらが　赤毛染　千代ぬれ羽
本品の內外各地に於て好評を博つゝあるは製劑の特に親切確實なる他品に優秀せる證明なり又使用法最も手輕くして實用と安全とを兼備す
定價　大瓶三十錢　小瓶十七錢
全國到る處の化粧品店、雜貨店、藥店等にあり御最寄にて御買求を乞ふ
本舖　東京日本橋區通鹽町一番地　服部松榮堂　電話浪花長二一七五　振替口座一二二八六五

社告

『短文及新體詩』共に應募原稿に佳什無く不得止本號には發表を見合せたり。投書家諸氏の奮起を切望す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌

大口鯛二選評

天　福井　簑輪貞子

をさなきにこゝ書初の奥しき誰れさわらびの手を持ちにけむ

評曰、おひさきこもるはなちがきの愛しさ見るやうにて

地　神奈川　足立原とく子

たゞひとり春をしめつる梅が枝に今朝はきこゆる鶯のこゑ

評曰、此の梅鶯の春を占むるあるじはたそ、

人　岡山　横川明子

まどちかく梅の初花咲きしよりあられなる日もとざしかれつゝ

評曰、姉さも消きあしたのさまや

優等

數石に梅ちる夕べ鶯に餌をやる少女およすげにけり　岩代　長谷川吉野

少女子があらふ手もとやもれつらんわかむらさきの春の里川　福島　鶴田よしの

野守する翁が門の梅の花一枝こひて家つとにせん　三河　山内經子

かすみたち梅もにほへと山里は木かけにゆきのいまだのこれり　泉州　金田つるえ

咲きつゝく花のにほひにかすむなり櫻か岡の春の夜の月　東京　林喜久子

鶯のなくはかりにてわがいほは梅のさかりもしづけかりけり　横濱　鈴木松子

きみきませ紅梅さきぬちらぬまに何はなくともむかしかたらん　靜岡　蜜田とめ子

次等

文に倦みて學のまどを吾おせばなくさめかほに梅かをるなり　岡山　八木清子

日向よく白梅かをる庵の内にひとり翁の煙すひ居り　東京　下團こま子

をさな子がふる野の若菜つまんとていでゆくかたにうぐひすのなく　岡山　西村長子

我宿の軒端の梅は匂へどもまだ鶯の聲はきこえず　岡山　清水梅子

年ほきの友の玉つさなつかしみくりかへし見つ遙ふ心地して　岐阜　小島駒子

きさらぎの風また寒き春の野に母を思ひて若菜つむなり　大分　桂木靜子

音聽も春めきにけり昨日今日かをりゆかしく梅さき初めて　函館　安藤喜美子

月消き秋の夕に棹すぎていと淋しげに鹿の聲きく　遠江　馬淵かをる

北かげの軒のたるひもとけそめぬけふたちかへる春のひかりに　山口　末由貞節子

棹たゝむ人もなぎさのすて小船霜の重荷を今朝ばつみけり　山口　末田竹子

下駄の音いそがしう行く少女子の黒髮てらす冬の夜の月　横濱　上杉らく

亡き兄のめでつる鉢の梅さきぬあの世近くば送らんものを　岡山　西村清子

踏わけてたつれし山のかひあらば初音きかせよ谷のうぐひす　山口　河野梅子

何となく嬉しきものは梅が香にかすみもそめたる春の夜の月　石川　篤子

山里の冬は樂しや書なれど炬燵とりまき笑ひさゞめく　青森　馬場ちよ子

さらぬだにさむさ身にしむ冬の夜にあまどたゝくはみそれなるらん　呉市　竹人男子

京染めのたもとゆかしき花ごろも花の吹雪にかざして舞ひぬ　京都　野口百合子

思はしとおもひながらもうせし子のゆめみし宵ぞれられざりけり　北海道　五十嵐やす子

いさましく鷹のうらよりさきいでてほこりがほなる白梅の花　三河　藤田秀

このあさげ文よむ窓の呉竹に春を告げてやうぐひすの啼く　京都　露緒子

白梅の匂ふが如く生ひたちぬ今いく年のうなゐはなりそ　仝　仝

文苑投稿規約

一、和歌及俳句の原稿用紙は必ず端書又は端書大の厚紙に限る。住所氏名を明記せざるものは沒書にす

二、短文は一篇百八十字即ち十行以内とす。

三、新體詩は行數筆法等何等の制限を設けずと雖も住所氏名明瞭ならざる者は掲載せず。

四、一人にて雅號若しくは變名を擬つも用ふるが如き者は今後斷じて沒書にす。

五、賞品は發表後十日以内に送與す、不着の際は其旨遠慮なく申出られたし。

筋向ふへ移轉仕候

謹啓初春の候餘寒尚去難き柄折各位益々御健祥御多幸に被入候段欣抃此の事に奉存候降而弊店儀平素深厚なる御愛顧を蒙り難有感銘罷有候就ては手狹まの爲め兼て筋向ふに店舗工事中に有之候處漸く出來仕候に付當る九日を以て同所に引移り從前通り營業仕候間何かと倍舊の御眷顧御引立を給はり度切に奉希上候　敬具

都足袋粋乃友

○都足袋ハ曩ニ農商務省ニ出願シテ登録商標ヲ得タル都人士女ノ理想品なり

○都足袋ハ外觀優雅ニシテ現ニ都人粋士ノ歡迎ヲ受ケツヽアリ

○都足袋ハ蹠ニ縫目ナク衣服ノ裾ヲ傷フコナン

○都足袋ハ製作ニ至大ノ注意ヲ拂ヘリ故ニ具合選良ニシテ縫目ノ破綻スル處ナシ

○都足袋ハ材料最モ優逸ニシテ經濟上尠ナカラサル効力ヲ有セリ

三重足袋君が益

○三重足袋君ガ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ優ニ群ヲ抜クノ耐久力ヲ有ス

○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ冬季ハ寒チ防ク効力ヲ有ス

○三重足袋君カ益ハ甲三重底三重ナルヲ以テ脂肪ノ滲出ヲ遮キリ體温ヲ保ツノ効力アリ

○三重足袋君カ益ハ製作最モ精密ナリ故ニ縫目ノ破綻スル虞ナシ

白紺 羽二重足袋

○羽二重足袋は外觀内容共に美麗にして一般社交界の好評を蒙れり

○羽二重足袋は御婚禮其他御儀式履きに缺くべからざる必要品なり

○羽二重足袋は衣裳の裾を傷めざるは勿論裾捌き最もよろし

營業課目

最上絹綿足袋各種
本ネル・メリヤス類
シヤツ・ズボン下・各種
絹製股引ハンケチ類
萬國々旗附屬品

東京日本橋通り室町三丁目

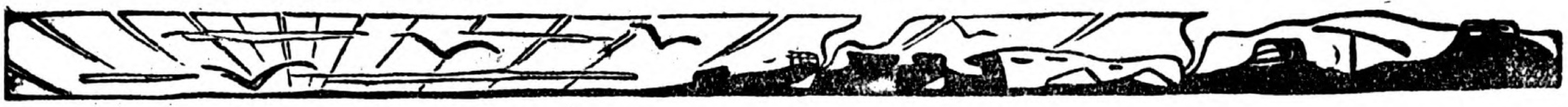
龜屋足袋店

宮内清兵衞

電話本局　一七一二番

御注文は代金引替小包にて御送附可申上候拾足以上送料自店持

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



花王石鹸

品質善良　衛生ト經濟ニ適ス

本舗　東京　長瀬富郎

内外博覧會ニ於テ金銀賞牌數個受領ス

關西代理店　大阪大崎組商會

岩佐病院　日本橋區蠣殻町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）

診察時間　自午前九時至正十二時

内科婦人科　院主　岩佐純
内科　院長　ドクトル　岩佐新
外科　醫學士　山村正雄
産科婦人科　醫學士　西村漸
腦病脊髓病　醫學博士　土田卯三郎

川上貞奴孃十數年來常用の美顔化粧料（佛國巴里シモン會社製）

シモン、クレーム

「シモン、クレーム」は何故に斯く長くマダム貞奴孃は此クレーム並に粉白粉（ライス、パウダー）黄色、肉色（白色 朱鴇色）等の化粧料を日常愛用せられつゝあるか……それは「シモン、クレーム」は一種の強壯劑と數種の皮膚を柔かくする藥劑及化學上の美顔料とを配合し十年來の實驗と綿密なる注意監督の下に精製せられたる美顔上世界無比の衛生品であるからであります

Crème Simon

「シモン、クレーム」は皮膚を白くし且つ滑かにして表面がすべ〳〵となり又天鵞絨の如く艶麗ならしめ快よき香氣を發します毎日お化粧の時に御使用になれば何時迄もつやつやしき容貌を保たれます

「シモン、クレーム」はヒビ、アレ、日ニヤケ、汗モ、ニキビ、霜ヤケ又髯剃の後やお小供衆に塗抹ますとすべ〳〵として大變氣持がよく又美しくなります

東京大阪三越呉服店は本品を世界最上化粧料として今や盛んに推擧しつゝあり各地洋品店、化粧品店にあります

日本代理店　横濱七十番　エー、ハイム商會

關西特約一手販賣　大阪市安土町四丁目　河井商店化粧品部

登録商標

「シモン、クレーム」「粉白粉」「石鹸」共特ニ登録商標を確めの上御購求を願ひます……

ちゞれ毛　赤ちゃけ毛

白毛を未前に防ぐ特効あり

專賣特許願の藥にて妾御得意に試みし處一人として全治せぬ方なき奇藥なり困難者に告げたし往復はがきにて御照會あれ詳報す

東京市京橋區桶町四（女髪結業）山岡さだ子

内科一般　東京神田美土代町三丁目十七番地　午前宅診 午後往診　**板垣亨**　電話本局貳千九百七十番

▲宇治茶直接小賣▼

捌家製品ノ眞價ニ就テハ世巳ニ定論アリ左記手續ニヨリ注文チ乞フ

販賣手續

（一）無料ニテ注文シ送金ノ出來ル便法ハ御便利ノ郵便局ニテ振替貯金拂込用紙ト云フチ受ラレ捌家ノ住所及ビ口座番號一〇〇四番等チ記シ裏面ニ御入用ノ茶名斤數其他ノ用事チ記入シ代金ヘ添ヘ差出サルレバ該金員等ハ直チニ捌家ヘ届キマス故ニ早速品物チ郵送シマス至極安全便利デアリマス此ノ用紙ハ捌家ヘ御申越アレバ何枚ニテモ送リマス

（二）品物ト代金トハ引替ニテ送品シマス御入用ノ茶名斤數チはがきニテ御申越アレバ直チニ代金引替ニテ送リマス

（三）送費小包料無料代價一圓以上御注文アレバ小包料ハ捌家ニテ自辨ス壹斤二及清韓ト樺太ハ小包一個ニ付キ十錢申受ク

經濟ヲ重ゼラルヽ婦人ハ一讀アレ

▲宇治茶製造元小包販賣ノ元祖

山城綴喜郡草内村　振替貯金口座番號 東京壹〇〇四番 大阪貳〇五五番

七碗堂　古川專太郎

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　**玉寶堂**　電話下谷（特九六五番）一二四四番

シンガー會社　横濱市山下町六十一番　東京市銀座大通尾張町　大阪市南區心齋橋筋

家庭用婦人向　**シンガーミシン**　月賦販賣

○裁縫書進呈　○無月謝入學　○無料出教授

（明細書）は御申越次第無代送呈……

小兒科專門　小兒喘息、百日咳、腺病質、胎毒、貧血症、胃腸病（脹滿、脾疳）小兒皮膚病

ドクトルメヂチーネ　**長井岩雄**　東京日本橋數寄屋町（呉服橋外）電本百八十

腦神經精神病科　病室清新 診療確實　東京龍戸町電話浪花二五五二　**加命堂腦病院**

内科專門　神田區駿河臺 電本一六六九　**杏雲堂醫院**　院長醫學博士　佐々木政吉

院長 醫學博士 榊順次郎　婦人科産科 毎日午前診察
副 醫學士 久保德太郎　婦人科産科 毎日午前診察
副 醫學士 田代謹二　婦人科泌尿器病及外科一般 火木土午後診察

婦人科産科 榊病院　●施診火木土午後一時至二時　麹町三番町三三（電話番町三九五）

峰内科醫院　神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）　内科病特に腦脊髓神經疾患　院長 ドクトルメヂチーネ　峰秀世

鳥山内科院　院長 醫學士 鳥山南壽次郎　午前診察 午後往診　京橋區鎗屋町十一番地　電話新橋千七百四十六番

●まち針をかねた**村島かけ針**は使つて危けなく體裁もよく丈夫です　賣捌所は各針店學校用品店に請賣す御使用を願上候　發賣所 東京市本所區綠町二の二八 村島英

山羊乳は人體營養に大切なる蛋白脂肪共牛乳の二倍を含み常に飲用する時は血色を能くし且美味無臭牛乳を嫌ふ人にも適す　荏原郡目黒村三田　**小野寺山羊牧場**

●**外科**　午後往診 夜間診療　本郷區元町一の十四（淨水地西南隅）　醫學士　**三原新太郎**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

胃病良藥 太田胃散

東京麻布 學農社

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番
電話本局四九八番

定期預金	六ヶ月以上	年六分五厘
當座預金	百圓に付日歩	一錢
小口當座預金	同日歩	壹錢參厘

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側
御影堂 持阿彌

最も美しき少女雜誌
花衣
少女の友 臨時增刊 二月十日一刊 拾錢 郵稅壹錢

△私の少女時代に最も嬉しく感じた事
東京高等女學校長 棚橋絢子
跡見女學校長 跡見花蹊
三輪田高等女學校長 三輪田眞佐子
山脇高等女學校長 山脇房子
日本女子大學校講師 三宅花圃
日本女子商業學校學監 嘉悅孝子
東京女學館講師 藤崎つね子
女子高等師範學校敎諭 宮川壽美子
府立第一高等女學校敎諭 眞島美枝子
府立第二高等女學校敎諭 高木みつ子
府立第三高等女學校敎諭 蒲生さと子
△記者六名合作 おとぎ噺（上）水裏（中）月亭（下）峽水
少女小說（上）素水（中）草水（下）湘雨
◉懸賞當選讀者文藝◎談話俱樂部◎美麗彩色寫眞口繪
東京京橋南紺屋町 實業之日本社 振替貯金三六二番

東京市麹町區錢瓶町（常盤橋內）
日本興業銀行
電話本局 一、二八〇番 三、三〇〇番 四一番 三七番 （特）一〇二番
資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、特別當座預金

皮膚特効 美白新劑 チプリ化粧液

小瓶三十グラム入 金貳拾五錢 送料四瓶迄八錢
◉本品は西暦千九百〇六年の發明にして常用せば肌を緻密にし自然白色艶麗の美顏たらしめ「ニキビ」「ハタケ」其他「顏ノアレ」等に最も奇効あり
◉効能顯著なる爲め印紙貼用せり化粧水にして貼用せるは本品を嚆矢とす
◉東京市內は勿論到る處の賣藥小間物化粧品店にあり品切れの節は送料八錢（四瓶迄）相添へ本舖へ御注文あれば直送す
東京日本橋區本石町 日本一手販賣 松澤常吉

たんせきの大妙藥!!! ぜんそくを全治し音聲を美にす
經驗新方 立効丸
この立効丸は老若男女の痰咳の「甜藥」にて別して咳嗽つよきには無類の妙藥なり、されば常に咳嗽いでゝ安眠なしがたく、または喘息の持病ありて痰飲つよく咳いで息きれ、又はこみあげるによし
◉音聲のかれたるに大効あり
◉定價 金五錢 金拾錢 金貳拾錢 金參拾錢 金五拾錢 金壹圓
◉本劑は全國有名の藥舖賣藥店に販賣す便宜御最寄にて御購求を希ふ
東京上野（下谷區）池之端仲町 寶丹本舖 守田治兵衛謹製

○院長ドクトル 木村順吉
婦人科産科 木村病院
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

小兒病診療
醫學士 內田愼太郎
淺草區福井町貳番地 宅診午前 往診午後
●電話下谷七八一番

（注意）近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び一頭の麝香獸に御注意を乞ふ市內賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候
◉芳香の永く保つ點にて高評也
麝香獸印 大瓶壹圓 中瓶六十五錢 小瓶二十五錢
ムスク香水
東京日本橋本石町四 松澤常吉

無代進呈す
蔬菜種子原産地
各國農産種苗問屋

東京府北豐島郡瀧の川村（板橋停車場傍）
瀧野川農園
振替口座東京五九一六番

めりんす友禪
古渡り唐ざん
其外おまたや式袷安物
赤のせん
おむだや本店
東京日本橋人形町通り
電話浪花四三四五

愛國
理想の婦人
深き母、常に快活なる氣を以て子を育する母の爲身を愛し、家の事を執るに明敏なる婦人
家庭にあり又交際場裡にありて常に淸涼快活ならんには「ゼム」を服用せらるべし
◎主効
◎頭痛◎眩暈◎氣鬱◎舟車醉◎時候傷◎水傷◎食傷◎消化不良◎口熱◎口中惡臭◎其他常用すれば氣分を爽快にし音聲を美にし諸種惡疫を豫防す。
定價 七十五粒入十錢 百六十粒入廿錢 四百廿粒五十錢 九百粒入壹圓 容器入廿錢
東京 馬喰町二丁目 愛國堂 山崎榮三郎
大阪 高麗橋二丁目 山崎兄弟商會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
東橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區蠣殻町 春風舎
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社
本郷區湯島 弘進社
神田須田町 金蘭社

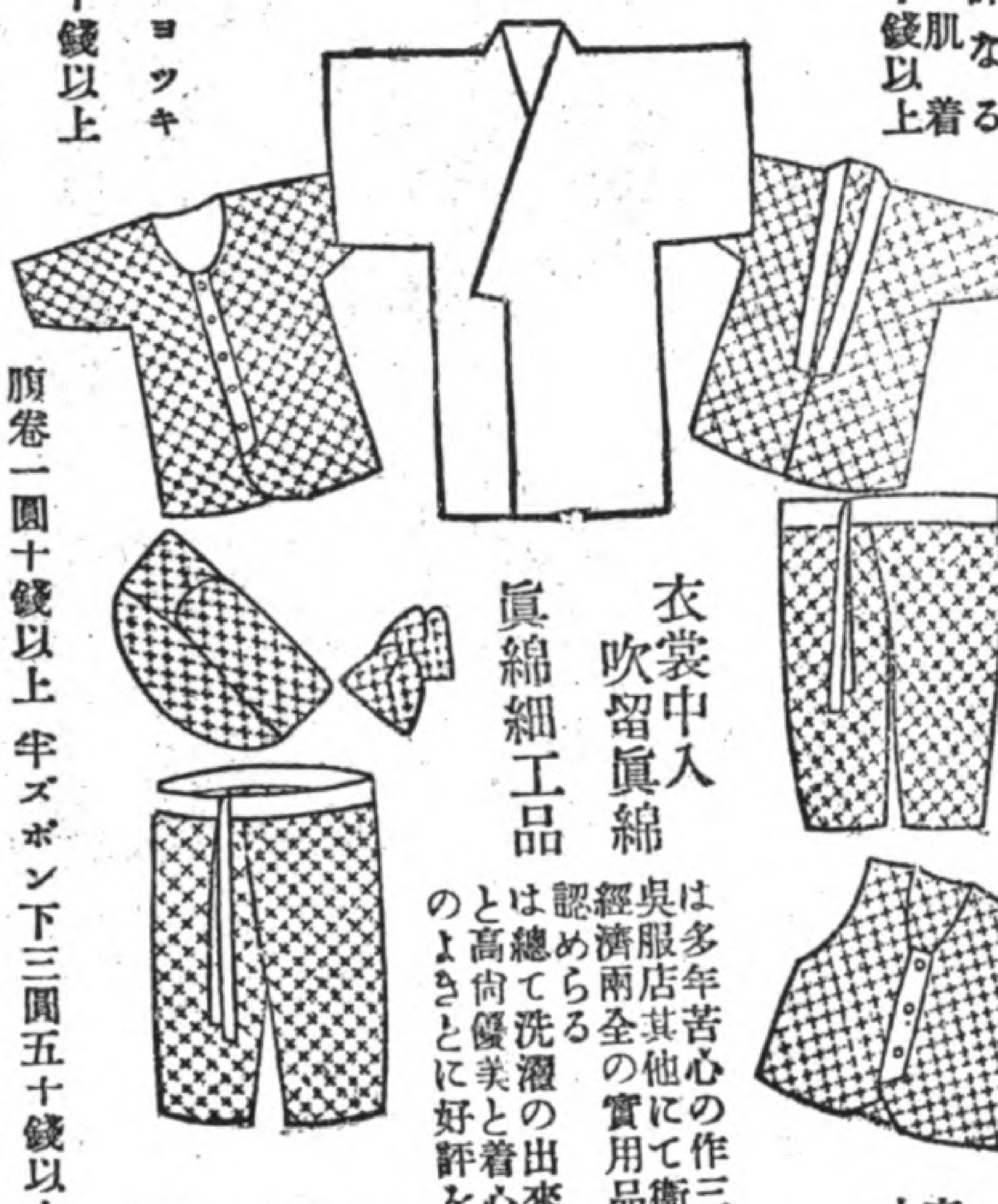
洗用 ワツセル
●此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
●用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは(拾貳號)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶し拭してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具の拭き掃除にも有効です
定價 拾貳號入 金拾五錢 六號入 金八錢 袋入二錢
東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七二二
英國製ワツセル日本一手販賣元 御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元 三友商會

◉婦人病専門 院長 櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮様前 電話新橋三三二四
櫻井醫院

産科婦人科専門 診察毎日 入院随時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八
岩田病院

東洋一の商品陳列即賣館
第一 第二 帝國博品館
第一館 新橋角 電話新橋一六五二番 二二六一番 あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣す
第一第二館内各店共通商品切手發賣……御買上品は市内無賃にて配達致します
第二館 上野廣小路 電話下谷五五三六番 三〇四四番 館内あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列即賣するの外左記特殊の設備あり
喫茶店。和洋料理。ミルクホール。汁粉。壽司。菓子果物店。美術室。盆栽盆景。理髮店。休憩所。上便所。洗面場。夜でも撮る寫眞場。

專賣特許實用新案眞綿細工
●眞綿細工にて洗濯の出來る品を製作するは弊所のみ



衣裳中入吹留眞綿 男女着物羽織(七十五錢以上)
最好評なる薄製肌着 二圓五十錢以上
半袖チヨッキ 三圓五十錢以上
薄製婦人半股引二圓八十錢以上 チヨッキ二圓以上
腹巻一圓十錢以上 半ズボン下三圓五十錢以上 足袋中ばき二十錢以上
衣裳中入吹留眞綿 眞綿細工品 は多年苦心の作三越呉服店其他にて衛生經濟兩全の實用品と認めらる は總て洗濯の出來ると高尚優美と着心持のよきとに好評を得
特約店
東京 大阪 三越呉服店にあり
東京銀座四ノ十七 電話新橋一七七六 大和屋
東京芝西久保葺手町 電話新橋一五四九 さかいや
京都 東京 高島屋呉服店
東京 大阪 白木呉服店にあり
●日本國産眞綿細工各品は直接肌につけて着心ち最もよし
●製造元 麻布吹留眞綿製作所

耳鼻咽喉病診療
入院應需 淺草區向柳原町二丁目二番地左衛門橋通り 電話下谷壹三二〇
中村醫院

目方ウリ 大俵炭
かます入 堅土釜切炭
神田三崎川岸 電本參貳〇八番 戸塚商店

色白く艶をだす(大形 廿錢 小形 十錢 新小角 十錢)
松澤ホーサン石鹸
●近來類似品あれば御買求の節は上部の商標に御注意を乞ふ○市内賣藥小間物化粧品店にあり
東京本石町四 東京 松澤常吉

見よ家庭の新寶典出づ
石塚月亭君編
弦齋夫人の料理談 第二編
大版和装美本 價六拾錢 郵稅八錢
◎家庭向の御馳走を季節に分けて手輕に出來る樣總べて問答體に平易に說明す此料理の心得を巻末に添ふ臺所の重寶此上なし
◎料理學者村井弦齋先生執筆
◎奥様方は半襟一枚を求むる金を節してこの寶典を座右に備へられよ
▲村井弦齋君著 婦人の日常生活法(上製金文字入美本價壹圓廿錢郵稅拾貳錢)は實に本書也婦人一生の寶
▲天野誠齋君著 家庭日常の實際(價四拾錢 郵稅六錢) 各方面の家庭にて實際經驗したる有益の事項を網羅す
▲梅田嬌菓君著 和洋折衷 新案菓子製法(價五拾錢 郵稅六錢) 各家庭にて容易に實行し得らるゝ輕便な菓子製法網羅す
東京京橋南紺屋町 實業之日本社 振替三二六番

此度諸名家の賛助を得て本會を創設し、我國二千年來の歌の巻々を次々に刊行し、最も便宜なる方法を以て趣味ある家庭の需用に應ぜんとす。刊行すべき書籍は其體裁を一にし、最も嚴密なる校訂を施して在來の流布本の誤謬を正し、特に鑄造せしめたる優美の活字を最良の日本紙に印刷し、装釘も亦極めて高雅のものとなし用ひて貴紳の書架を飾るに足らしめんとす。先づ第一期として刊行するは歌仙家集六巻並に二十一代集五十六巻にして毎月二冊宛(紙數によりては三冊)刊行し略二箇年半を以て完結を期すべし。今や歌仙家集第一巻(人丸集、躬恒集、素性集、猿丸太夫集、家持集、業平集、兼輔集)第二巻(敦忠集、公忠集、齋宮集、敏行集、宗于集、清忠集、興風集、是則集、小大君集、能宣集、兼盛集)の印刷成りたるを以て、汎く江湖の紳士淑女に票告して入會を仰ぐ。

歌書刊行會會員募集
本會々費は毎月金壹圓とす(地方は送本料八錢を要す)○刊行本の紙數平均一冊七十枚乃至八十枚とす○本會の趣意書、規定、刊行本の見本をまとめて印刷したる小冊子あり往復はがきを以て申込まるれば直に送呈すべし ●入會申込期限は三月三十日とす
本會顧問(イロハ順)
文學博士 萩野由之君 賀古鶴所君 伯爵 柳原義光君 佐々木信綱君
子爵 醫學博士 渡邊千秋君 井上通泰君 柳田國男君 下田歌子女史
子爵 醫學博士 鎌田正夫君 大口鯛二君 相良頼紹君 森林太郎君
東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地 電話下谷二七四五 振替口座東京三〇五八
歌書刊行會

明治四十二年二月廿日發行(毎月五日廿日二回)
(定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵稅不要)(廣告料一行金六拾錢)
編輯人 永持德一 發行兼印刷人 山澤俊夫
發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所
發賣所 同 京橋區南鍋町 株式會社隆文館
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町秀英舍工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會記事

□評議員會　本月の評議員會は來廿四日本部に於て開會す。

□參事會　本月三日午后一時開會出席者左の如し、午后三時三十分散會す。

關　郁子。濱尾作子、東郷鐵子、松平須磨子、三輪田眞作子、山脇房子、高木鑅子、有島幸子、仁杉歌子

□囑託及解囑　本月四日附を以て、總裁殿下より左の通り囑託せらる

內務大臣法學博士男爵　平田東助氏

愛國婦人會顧問を囑託す、

二月五日附を以て、總裁殿下より左の通囑託せらる。

貴族院議員子爵　松平直平氏

愛國婦人會事務長を囑託す

同時に松平直敬氏の事務長及佐藤會計監督の事務長代務は解囑せられたり。

猶同日を以て臨時擴張部に於ける部長及委員左の通會長より囑託せらる。

理事子爵夫人　岡部抵子氏

臨時擴張部々長を囑託す

評議員伯爵夫人　東郷鐵子氏
同　男爵夫人　濱尾作子氏
同　關　郁子氏
同　同　松平須磨子氏
同　高木鑅子氏
同　山脇房子氏
同　有島幸子氏
同　仁杉歌子氏
同　三輪田眞佐子氏

臨時擴張部委員を囑託す

□無記名の寄贈品に就て　客月九日本會に宛たる無記名の寄贈品一個小包郵便にて到着したるが、中にはフランネルの着物一枚に左の添狀あり。郵便の消印にて其鹿兒島局管內なる事は知るを得たれども住所氏名等一切無記名の爲、折角の厚意も之を傳ふるを得ざれば、該篤志者は至急住所氏名を申出られたし。

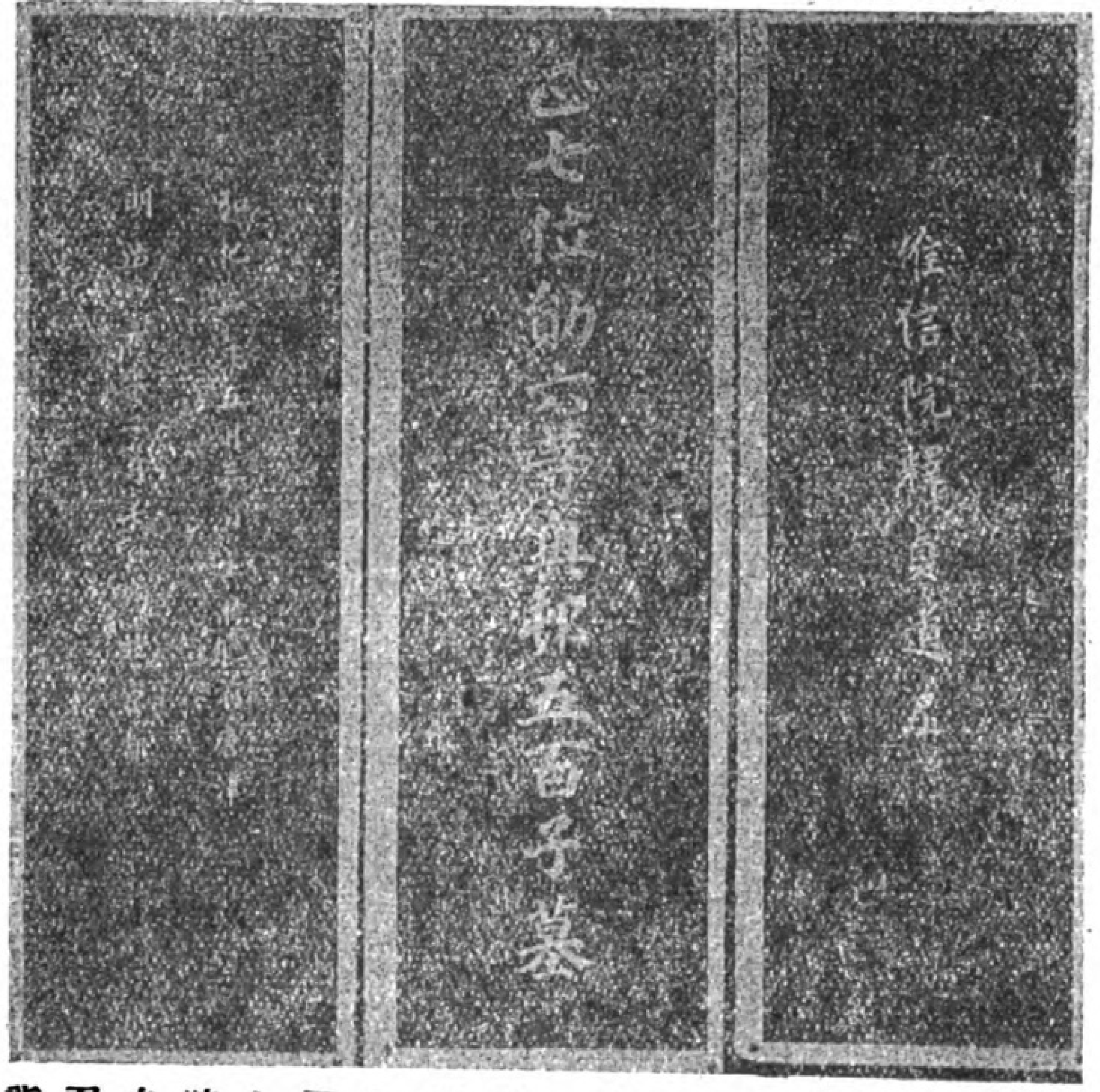
拜啓時下寒冷の折柄各位益々御清榮御奮勵被遊候御事邦家の爲奉大賀候、然らば先日貴會幹事野中女史御來遊の節御話を拜聽致し前日に增倍して其御精忠の御志に感憤仕候却說此品は粗品には御坐候へども御送付申上現今廢兵となりて寒貧に苦しむ士に御送達被下候樣貴會に御願ひ申上る次第に御坐候何卒御許諾被成下度偏に願上候草々

頓首

明治四十一年十二月廿七日認む

□奧村刀自三周忌法要　前號豫告の通り刀自の三周忌法要は去六日午後一時半より淺草本願寺に於て、法主大谷光演師導師として連枝惠日院大谷勝信、宜暢院大谷瑩韶、光德院大谷勝眞の諸師を始め佐竹慧確、菅原藤讓、金森寺秉宏、久萬壽松榮、藤井大完、內藤現良、本多春學、佐々木賴昭、平松　寺、井上家孝、伊藤大忍、本多良顯、奈良和嘉、那沼實道、稍德實秀、春日廊光、佐々木孝高、菅原智廣、齋藤明定、佐藤天城、日野照症、渡邊順慶、平松理英、葦名惟因、白尾智英、南條文雄、塚東性、外々坐八名參集のもとに嚴修せられたり、當日は京都より東上の刀自愛女敏子氏を始め、岩倉會長、近衞理事、島津理事(代)毛利理事(代)岡部理事(代)谷理事、戶田評議員(代)岩倉、東郷、丹羽、細川、濱尾、松平須摩子、松村、關、原、押川、大谷かち子、大久保、龜井、高木、棚橋、山脇、鄭、有島、跡見、渡邊げん子、仁杉、淸水、柳谷、鍋島、岩佐、松浦島子等各評議員、東京支部麴町區幹事小野よし子、東村寥子、杉浦とし子、艸田區幹事横幕武良子、馬島國子、酒井李喜子、佐藤そみ子、日本橋區幹事藤田いそ子、京橋區幹事金子貞子、宇津木ひろ子、芝區幹事勝野愛子、中山貞子、中澤春子、村田うた子、藤田つね子、山口袖子、靑木要子靑木てつ子、麻布區幹事花房隆子、手塚けい子、赤坂區幹事勝たま子、松平よし子、四谷區幹事村田千代子、松平すゞ子牛込區幹事石塚督子、拓植愛子、本鄉區幹事石崎つる子、本所區幹事沼崎愛子、染谷惠喜子、栗塚幾子、小池奈可子、日吉德子、深川區一叉靜子、川名よし子、佐原郡幹事渡邊たけ子、豐多摩郡幹事小野崎たつ子、相澤かま子以上の各幹事及小笠原顧問、岡部顧問(代)其他遺族廢兵及本會々員等約五千名にして、さしも廣大なる本堂も殆んど立錐の餘地なし。定刻に至り鐘を鳴せば先づ薄紫の袈裟を着けたる先衆僧徐々として堂に上り各々定めの席につき、終るや大谷光演師は道服緋衣を着け、連枝の諸師に導かれて導師席につき、先づ實鐘の音につれて、法音流朗に總禮あり終つて阿彌陀經の讀誦短念佛和讃等定めの如く修し、衆僧堂より退出せしは三時頃なりき、此間約一時間滿堂水をうつたる如く、肅然として法香薰修の中龍燈低う垂れたる聖殿の道場には刀自が生前を偲びて轉た懷舊の情に堪えず、涙に暮れて法味を納受せるものも多りき、當日法要を營むに際し、東伏見宮家よりは御菓子を供へ賜り、岩倉會長、參事會員、理事一同よりは各々生花一對宛を寄贈せられ、佐々木伯爵家よりは菓子を供へられ、其他千家男爵家、鍋島侯爵家、谷子爵家、及三井家、大野氏田代治子、石川支部等よりは各香料を寄贈せられたり。猶ほ岐阜縣大垣なる金森吉次郎氏よりは左の如き電報を送られ次て、岐阜縣安八郡會員一同主催にて刀自の佛事を十一日に執行すべき旨報ぜらる。

『本日奧村刀自佛事遙拜建碑盛式を祝す。』法要全く終りしは午後三時頃にして參列者は各刀自の墓に詣て、散會せり。



此寫眞版は先般竣工したる淺草本願寺內の故奧村五百子氏墓碑の三面撮影したるものなり、此寫眞及石摺、何れも有志の方には實費にて差上ぐる事を得、委しくは本誌第四面の錄報欄を見給ふべし。

□臨時救護　本月四日高崎聯隊內間口二十間奧行五間のバラック內に於て新兵教育中一陣の大旋風俄かに襲ひ來り、該建物柱諸共一丈餘の高さに捲上げ凄しき響きと共に兵士の頭上に落ち來り、爲に重傷者三名輕傷者六名を出すの椿事出來したるに付、本會群馬支部よりは直に職員を派して病院に就き、親しく負傷兵士を慰問し、且つ金若干圓を各氏に贈與したるが次て本會本部よりも臨時救護金若干圓を寄贈したり。

□慰問に對する禮狀　先般韓國駐剳軍隊並憲兵警察官に對し、慰問袋を寄贈せしに、禮狀を送付し來る者多き由は、其都度報じたる如くなるが、猶其後到着の分を二三左に掲載すべし。

奉謹賀新年

先般慰問物品惠送件互我亦韓國官吏互拜領候愛國婦人之恤誠如此至極感謝々々

韓國黃海道沙里院巡査駐在所
巡査　文　章　鎭

愛國婦人會本部御中

慰問袋を賜はりしを詠みて

いさゝかのものなりとても慰の袋のそこはみちみちにけり

かずかずの慰問品誠にかしこく身に餘り申候實に愛國婦人會の心根こそ奧床しくも亦尊けれ聊か國家のため本會のますます榮えてかんはしき香を放たれよ先は御禮まであらあらかしこ

明治四十一年十二月十日
韓國平安南道德川守備步兵第二十三聯隊第一中隊藥水洞分遣守備
三角新吾

近衞貞子様

□臨時擴張部職務規定　次の如し

臨時擴張部職務規定

第一條　愛國婦人會本部に臨時擴張部を置く其目的は本會々務の擴張を圖るものとす

第二條　擴張部は左の職員を以て組織す

部長　理事の內　一名
委員　若干名
遊說員　若干名
事務員　若干名

第三條　前條の職員は會長囑託に係るものにして男女を混ず

第四條　部長は會長の意圖を受け部務一切を處理す部長は部務に關する重要なる事項を委員會に提出して商議を求む

第五條　委員は部長に係る事項を商議評決し必要に依り支部を巡回す
但委員會は在京委員を以て組織す

第六條　遊說員は部長の指揮を受け專ら地方に派出し會旨の普及と會員の募集に努む
遊說員は巡回地方の會況及其他の情況を時々報告すへし

第七條　事務員は部長の指揮を受け事務に服す

第八條　擴張部の經費は本會擴張費を以て支出す

第九條　擴張部員の出張旅費其他の費用は本會會計の規定に依り支給す

明治四十二年一月

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本會近況

□定期救護　本會より定期救護金を享受しつゝある遺族廢兵の感謝狀は、其數極めて多く一一之を掲載し難けれど、左に掲ぐる來書の一斑を見て其全豹を知られたし。

謹啓時下寒威凜烈膚を裂くが如き候愈御健勝に被爲渉候由爲國家奉敬賀候却說故陸軍後備輜重輸卒北村直吉儀戰死致候に就ては御懇篤なる御弔詞並に金員屢々御贈與を賜り辱く拜受仕候就ては其當時早速御厚禮可申上筈に候處彼是遲延致し御無禮の段何とも御斷りの申上樣もなき次第實に恐縮の至りに候本人は已に黄泉の客と相成候共貴會の御厚情に對しては地下に於て宜敷滿足する事ならんと奉存候本人の名譽に至りては天地と共に窮りなかるべく就ては家門の名譽之に過ぎたることと無之候只遺族一同感涙に咽び居り申候此上は遺族一同專業を勵み此名譽をして空無に陷らざらんことを偏に祈居候先は貴會の御厚情に對し滿腹の熱誠を披きて感謝の意を表し御厚禮申上度如此御坐候匆々頓首

鳥取縣東伯郡淺津村大字上淺津村
故陸軍輜重輸卒北村直吉遺族
北村きく

愛國婦人會御中

肅啓本月四日付にて金拾圓御贈與に預り難有拜受いたし候、曩には優渥なる聖旨により時々の扶助料を受け過分の御鼎恩に浴し感銘の次第に候ひつるに今回かさねて斯の如き厚き惠みに接し申候段かへすがへすも厚き御恩召の程感銘仕り候右御禮狀迄申上度候敬具

岡山縣久米郡大井東村宮部下
故陸軍一等卒藪木澤市遺族
十二月十八日

愛國婦人會長公爵夫人岩倉久子殿

▽秋田支部△

□新年祝賀會　客月十二日縣公會堂に於て開催せる同祝賀會は出席會員百十名の多きに達し宴席正面上段の間に、總裁殿下の御寫眞を奉置して一同拜禮し次に森顧問開會の辭ありて午後一時開宴し講談及福引の餘興を催し各自歡を盡して和氣靄々の内に散會せしは午後三時頃にして近頃の盛會なりしと云ふ

▽沖繩支部△

□新年互禮會　客月五日午后一時より南陽館に於て新年互禮會を開催、來賓は日比顧問、河村、藤田、和田、野島の相談役及岸本主事及齋藤、朝武士、喜入、知花の幹事部顧問等にして來會々員は日比支部長、河村、和田、藤田の支部副長を始め總て三百貳拾名の多數に及び會場には總裁殿下の御寫眞を奉安し、君か代吹奏にて拜賀式を行ふ、其次第は日比支部長開會の挨拶日比顧問戊申詔書捧讀、尊て婦人の勵むべき本分に關する口演、岸本主事の日露戰役に關し、支部及各幹事部へ銀杯下賜の披露、併て將來に於ける會員募集上注意及會務整理に關する報告あり、式後茶菓を饗し、餘興として蓄音器、手品並に支部長より寄贈に係る福引等あり、福引當籤者へ現品を渡すときの如きは滑稽百出、笑聲交々起り、頗る盛會を極め一同退散せしは午后四時なりき

▽福島支部△

□職員會　當支部本年の初會は去七日午前十時より赤十字社支部に於て開催す來會者は支部長石橋副長評議員幹事松本主事事務員赤十字支部員以下五十八名出席し支部樓上正面の壇上に淨几を置き上に總裁殿下の御眞影を奉し定刻に到れば松本主事開會を報じ先づ御眞影の覆を撤し一同最敬禮此間君か代の奏樂あり次に支部長は三十七八年戰役に下賜されたる御沙汰書を捧讀し尙ほ戊申詔勅の聖旨を丁寧懇切に訓諭せり次に松本主事は四十一年中の事務並に會計の狀況を報告せり續きて支部長より本年中募集すべき人員及會費の徴收方法を協議し、終つて福引及茶菓を饗し、一同歡を盡し午後四時散會せり

二、一月十八日本部擴張員八田一精氏來福に付職員會を同日午後一時より赤十字支部に開催す、來會者は內池靑木の兩相談役石橋副長評議員幹事松本主事事務員等にして支部長開會を報じ次に八田氏の各支部の狀況本會擴張すべき事由各職員の職責等には、懇切丁寧に口演せられたり終て茶菓を饗し、散會せるは午後四時三十分頃なりき

三、一月十九日午後五時より各郡市顧問を招待し懇話會を開催す、來會者は石橋阿部內池靑木の相談役石橋副長評議員松本主事事務員等にして松本主事開會を報じ次に支部長より本會現今の狀況並に本年增募すべき會員數(別表の通)に付詳細說明せられ尙ほ未納會費整理等に付、親しく協議し、續て八田一精氏より本會擴張すべき理由、總裁殿下御執務の狀況並に各支部現今の模樣等詳細に涉り懇切口演せられ、次に顧問の挨拶あり、終て酒肴を饗し、一同多大の歡を盡し散會せるは午後九時頃なりき

鹿兒島支部遊說日誌

第二報告　野中彌知子

日置郡遊說日誌

十二月十二日午前九時赤十字社支部內に待受たる賦本支部長取元副長島津(治子)、齋藤鮎川愛甲荻原各評議員幹事有川市長夫婁町田顧問市來主事等に告別山岡代議士佐々木醫學博士兩夫人月野事務員同行鹿遊說しなから日置郡市來町に向ふ鹿兒島市來間沿程九里馬車午後二時着濱田氏邸に入り直に會場西村寺に到れば雨天なれども聽衆に百餘名を受たり中山顧問開會辭了て講話四時五十分閉會濱田氏に一泊

薩摩郡遊說日誌

十二月十三日午前八時佐々木山岡兩夫人月野事務員迎の爲め早朝來着の薩摩郡岩脇幹事部長武藤甑方兩幹事野田郡書記同行馬車にて幹事部所在地川內町に向ふ市來川內間道程五里途中樋木村會員十五六名村長等を引率し出迎はれ同町に著せしは零時過高瀨屋に投宿午後二時先永寺に於て開會當地は鹿兒島市に次ての市街なれば聽衆二千餘名立錐の餘地なし岩脇顧問開會辭了て講話五時閉會後遺族廢兵三四十名に菓子を贈與し七時より旅館階上に於て幹事部役員有志者町村長三四十名の催しに係る晚餐會に臨み將來會務擴張上に付一場の談話を試み一同歡を盡して散會せしは十時過同旅館に宿泊せり

出水郡遊說日誌

十二月十四日午前八時出發佐々木山岡兩夫人月野事務員見送の岩脇幹事部長高木二方兩幹事横山郡書記同行何れも馬車にて出水郡阿久根村に向ふ川內阿久根間道程八里外洋の海岸に馬車を驅る危險さに引替上中下甑ケ島を遙く左に望み其風景の絕佳なる恰も新潟より佐渡ケ島を望むが如し途中四里の四方に着するや出迎の爲先着の中村郡山大村遠屋勝目會員同行十一時著中村屋旅館に投宿幹事部より出張の田野幹事部長勝目郡視學來訪川內より見送の岩脇幹事部長一行と豐發を共にし告別歸川されたり當幹事部は數ケ所に講話會開催の答なりしが年末支部多忙の爲日割を縮め變更せしを以て講演の集り如何を慮り當日は斷然休會

十二月十五日午後二時寺院に於て開會聽衆は二三里の交通不便なる遠來者多數を占め當阿久根は會旨普及せざる爲極めて幼還にして土地人の出席者互て僅少二百餘名瀨戸口助役開會辭了て講話四時卅分閉會中村屋旅館に宿泊せり七時より會員のみの茶話會の答なりしに土地の有志の男子五六十名來集再び開會一時間半講話し閉會を告しは九時頃なりき

十二月十六日午前八時出發佐々木山岡兩夫人月野事務員阿久根より見送の中村太田幹事大村會員同行馬車にて米之津に向ふ阿久根米之津間道程五里十一時過著米之津旅館に投宿午後一時清蓮寺に於て開會聽衆堂に溢れ無慮二千餘名中川女子部小學校長懇切なる開會辭了て講話四時五十分閉會後旅館樓上に於て幹事會員の催しに係る茶話會に臨み將來擴張上に付一場の懇談を爲し一同歡を盡して散會せしは八時頃なりき

因記當米之津村は肱黑村長田島出水郡書記留守一郎兩氏を始め其他土地有數の有志者十餘名贊助員となりて勸誘に努力し即時七八十名の新入會者を得加之贊助員も五六名増加非常に好結果を奢はし有志者擧て將來益會員募集方を快諾せり村長夫人肱黑幹事は非常に本會に熱心にて眞人に勝れ勸誘に盡瘁せりと

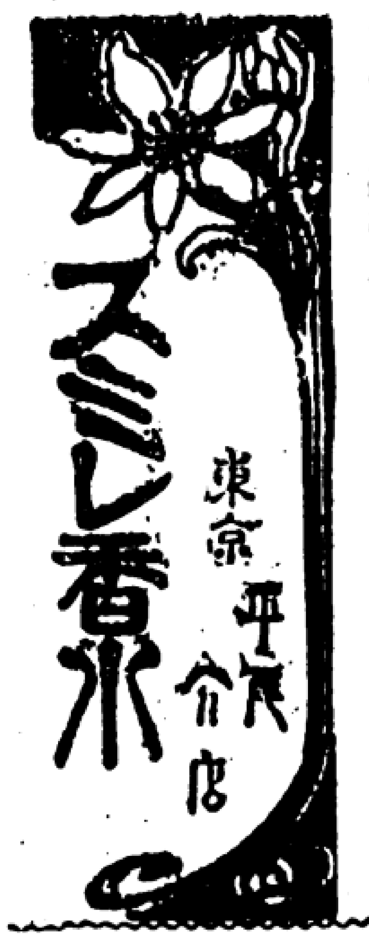
十二月十七日午前十時山岡佐々木兩夫人月野事務員先刻より迎の爲來著の田野幹事部長勝目郡視學町田郡書記前日來より迎の爲來着の濱口兒玉兩幹事(熱心者)米之津よりは肱黑幹事田島贊助員同行馬車にて幹事部所在地上出水町に向ふ米之津出水間道程一里三合十一時着龜屋旅館に投宿午後二時半西照寺に於て開會當日は前夜來の大雨天候險惡にも拘らず風雨を冒して三四里の遠來者引も切らず聽衆無慮二千五百餘名勝目郡視學懇切なる開會辭了て遺族に救護金を贈與せんとするも辭讓者多數の爲授受の餘地なし小倉郡書記大衆に向ひ喩其披露をなし次に講話五時閉會降壇するや當守住幹代て登壇痛切なる勸誘演說をなし非常なる盛會なりし七時より旅館樓上に於て幹事部役員有志者町村長三四十名の催しに係る茶話會に臨み擴張上に付一場の懇談をなし一同歡を盡して散會是にて當支部內遊說終了

十二月十八日午前九時山岡佐々木兩夫人月野事務員見送の田野幹事部長兒玉幹事勝目郡視學同行馬車にて米之津に引返し永濱旅館に投宿是にて田野幹事部長一行に告別午後二時中川女子部小學校長の懇請に因り校外講場こ集めし男女生徒に向ひ精神教育上に付一場の講話をなし歸宿

十二月十九日午前二時佐々木山岡兩夫人月野事務員肱黑村長夫妻田島鶴留兩氏其他多數の人々に見送られ米之津海岸より端船に乘込閩途に就けり山岡佐々木兩夫人月野事務員好に同乘本船泣見送られ是にて告別出帆同六時熊本縣三角港に着同七時卅分三角驛發列車にて同九時半熊本に著研屋旅館に投宿河內山主事吉田事務員來訪會務上に付種々談話を爲せり

十二月廿日午前七時四十分熊本發列車にて歸京の途に就けり午後一時卅分門司着是より峰船にて馬關に渡り同驛二時四十分發列車に乘込めり

十二月廿一日午前九時京都著同九時卅分發最大急行に乘替午後九時三十分著京



東京裁縫女學校長渡邊辰五郎先生遺稿

菊版五百五十頁

高等裁縫講義

定價金壹圓貳拾錢　郵送料　東京市內金四錢　地方金八錢　滿韓臺灣其他金三十錢

豫約特價　金七拾錢

豫約申込者既に多大に付近々愈出版に着手す

愛國婦人發行所

院長診察月水金木前松田醫學士診察火土前窮者施診火木前入院診斷隨時林兩副長は目下當院に在勤

電話本局 八八八(病院用) 八九八(私宅用)

東京神田區駿河臺鈴木町二 (御茶水橋畔)

東洋內科醫院

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎村濱 (停車場所在地)

南湖院

河野副長は目下當院に在勤院長診察十曜日午後〇同時窮者施診副長診察月、火、水、木、金、土、午前

特許登錄　衛生婦人サルマタ

釦の懸け外しにて穿きながらシゴキに障りなく用便するを得且つ腰廻りを溫め又常に月經帶を代用す

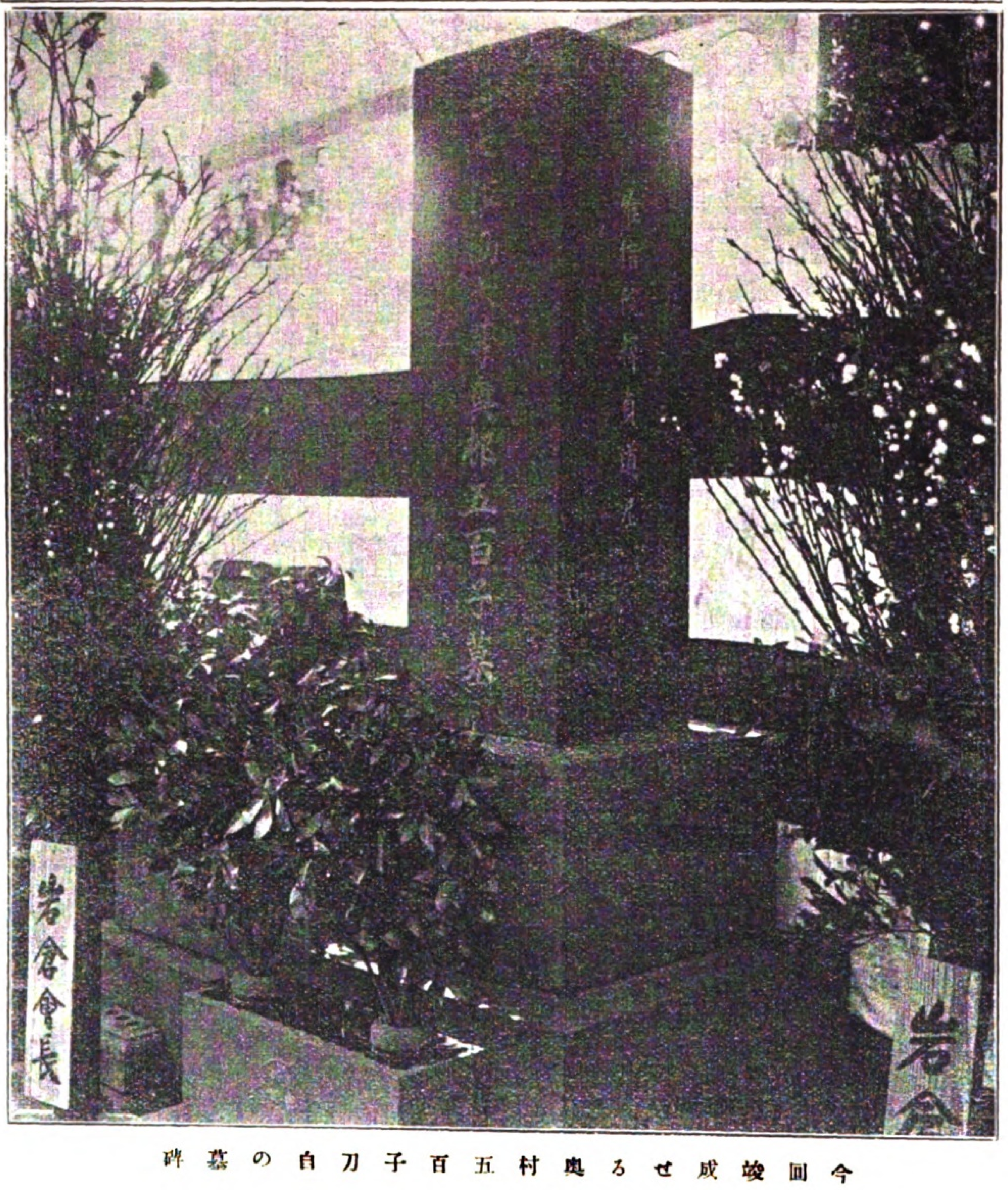
冬物ネル毛メリヤス製　郵稅共金四拾錢

發賣元　東京本所區外手町三　丸住商會販賣部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百七十一號附錄　明治四十二年二月廿日（毎月二回五日廿日）發行　明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

浅草本願寺に於ける奥村五百子刀自三周忌法要の光景



今回竣成せる奥村五百子刀自の墓碑

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN